

令和4年度

夢中になって学ぶ子どもの育成

～教科の見方・考え方を働かせながら、学びの連続性を生み出す指導の工夫～



令和5年3月

二本松市教育委員会

目 次

はじめに

I	今年度の研究推進	P.1
II	本資料の見方	P.2
III	授業改善の実際	P.3
IV	研究のまとめ	P.41

はじめに

コロナ過における教育活動も今年度で3年が経過しようとしています。学校においては、日々の感染症対策を着実に実施しているものの、コロナ感染は常態化し、臨時休業や学級閉鎖を余儀なくされる状況も見られました。そのような中であって、教育活動が自校の子どもたちの成長に真に寄与するよう精選・重点化を図るとともに、授業においても一人一人の子どもたちにとって個別最適な学びを保障する一層効果的な指導が求められております。

二本松市教育委員会指導委員会においては、教職員の授業力向上を目的とし、昨年度から本市の目指す子ども像「夢中になって学ぶ子ども」の育成を目指して研究を推進してまいりました。

昨年度は、副主題を「子どもの学びを実現する単元構成からのコーディネート工夫」とし、単元構成と教師のコーディネートの工夫の2点を研究の視点として授業改善に取り組みました。その結果、単元や授業構成において、子どもの学びを予想してつなぐことで課題の吟味や個を生かす多様な言語活動につながったものの、教科の本質に迫る発問の吟味や個人差への対応、個のまとめ・適用・振り返り・定着を見取り、次時へつなげる指導には課題が見られました。

そこで、今年度は、授業において夢中になって学んでいる子どもの姿を5つの姿として具体的にしつつ、各教科等の見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫と学びの連続性につながる効果的な振り返りの工夫の2点に視点をあて、授業改善に取り組んできました。

本冊子は、研究授業における2つの視点による手立ての実際や成果と課題とともに、本単元をはじめとして今年度の授業全般において求めてきた「夢中になって学ぶ姿」の具体的な5つの姿についてアンケートを通して検証した結果を含めまとめたものです。授業の改善が真に子どもの「夢中になって学ぶ姿」につながっていたのか、今後も問い続けていくことで、一層の授業力向上につながっていくものと考えます。本冊子が本市の教職員の授業改善に活用され、より質の高い授業実践につながることを期待しています。

結びに、指導委員の皆様の真摯な取組に敬意を表しますとともに、各学校の校長先生・園長先生、諸先生方の御理解と御協力に改めて感謝を申し上げます。

令和5年3月

二本松市教育委員会教育長 丹野 学

I 今年度の研究推進

研究主題

夢中になって学ぶ子どもの育成

～教科の見方・考え方を働かせながら、学びの連続性を生み出す指導の工夫～

<研究のはじめに>

今年度の指導委員会では、「夢中になって学ぶ子ども」の育成を目指し、昨年度の課題をふまえ、その具現化に向けた授業のあり方について検討しました。

まず、夢中になって学ぶ子どもの姿を具体的にイメージするところから始めました。

<昨年度の課題から>

- 学びの連続性を意識した単元構成
- 子どもの学びの姿がわかる客観的な調査
- 振り返りの時間の確保
- ICTの有効活用 など

夢中になって学ぶ姿 ～ 目指す子どものイメージ ～

学びの連続性の中で、具体的な子どもの言葉で表現することにより、具体的なイメージが広がる。

① 関心・意欲，課題意識（目的意識）

→ 熱中する・試行錯誤する・学びを楽しむ・気づく
＊関心・意欲・思考（自分の考え）の芽生え

今日の学習内容は〇〇だ 〇〇ができるようになりたいな！
これができるようになると、〇〇の力がついて〇〇の役に立つんだな。

学びたい！やってみよう！考えを表現したい！

やりがいがありそうだな。

おもしろそうだな。

解決したい！取り組んでみたい！

おもしろい！

不思議だと思ってたんだよ。

これまでとは違った形の問題だな

どのようにすると解決できるんだろう

おかしいな、もう一回やってみよう

（無言⇌内言，独り言の連続）

④ 振り返り →

冷静に自分の姿を見つめ直す。客観的に。
そして、主体的に学びの意欲が持続
自分事として捉える。

今日学習したことは〇〇。今度使ってみよう！どんなときに使えるかな？

次はどんな学習をするのかな。

もっと〇〇について知りたいな。

自主学习でもっと詳しく調べてみようかな。

〇〇の場面で使ってみよう。

あのときのことは、こういうことだったんだ！学習して分かった！よかった！

③ 話し合い・学び合い（協働の学び） →

友だちや教師に伝えたい。

聞いて！

こうするといいんじゃない？

どうやったの？

どうやるの？

だってね・・・

そういう考えもあるんだ。

友だちの考えを聞くっていいな。

ちょっとこれ見て、聞いて。

② 見通し → 自分の学習の姿をイメージする。

この前学習した〇〇が使えるそうだな。

〇〇が分かれば解決できそうだな。

〇〇は〇〇で調べられそうだな。

この学びの姿を持続させる（学びの連続性）には、どうしたらよいか？
授業改善の視点はどうすべきか？

「各教科の見方・考え方を働かせる」

深い学びの実現へ向けて、教科等の見方・考え方を育み働かせて学習することは不可欠であり、大前提。

常にどの段階においても意識していかなければならないもの。

「自分事として捉える」

見たことがある、でもなぜだろう・知りたい・やってみよう・調べてみたい・どうしてだろう・解決してみたい等、子どもの心がゆれ動き、学びに向かうこと。

「学びの連続性」

①関心・意欲，課題意識 ②見通し ③話し合い・学び合い（協働の学び）④振り返り，それぞれの場面において常に自分事として学びに向き合い、学びが持続している姿。まさに、どの段階でも夢中になって学ぶ子どもの姿が見られること。

そして、その姿は、一単位時間にとどまらず、単元を通してスパイラルに持続していく。

さらに、学びが持続するには、一人一人の学びがそれぞれに自分事として捉えられなければその実現は難しい。そこに、目の前の子どもたちの実態把握，個別最適化な指導の在り方の工夫も必要になってくると考える。

「振り返り」

一単位時間の終末の「振り返り」が次時につながり、次時の課題意識・目的意識に発展する。

その具現化のため、研究の視点を大きく2点に絞ることにしました。

視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

- 例えば・・・ 学びを自分事として捉える課題の設定など
- 例えば・・・ 学びが持続する学習活動，発問，場の設定，学びの流れが可視化できる板書など

視点II【学びの連続性につながる振り返り】

- 例えば・・・ 振り返りの視点を与える。
- ワークシートを使用し，振り返りを継続，可視化する。
- 時間と場を確保する。 など

II 資料の見方

○学年 教科
～をイメージした授業

本時でめざす各教科の見方・考え方を働かせた学びの姿について明示しています。

1 本単元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力等
1 本時	見通す	・二つの製品の価格が大きく違うのはなぜか考えることを通して、伝統や優れた技術を生かした工業があることに気付いている。	・価格が大きく違うのはなぜか考える表）（注）
2	教わる 考える	・北陸地方の工場では、昔から伝わる技術をどのように生かしているか調べている。	・資料から必要な情報を読み取り、伝統を生かした工業の様子について理解している。（知・技）
3	教わる めぐる	・大田区では、優れた技術を生かして国内外で評価されるような製品をつくっていることを調べ	・資料から必要な情報を読み取り、優れた技術を生かした工業の様子につ

赤枠内は、単元の学習計画における1時間ごとの夢中になって学んでいる姿について明示しています。

2 本時における研究の視点

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

視点Ⅰについて、具体的にどんな指導をしたのか、指導の工夫が分かるような具体的なワークシートなども含め児童の学びの様子をまとめています。

視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

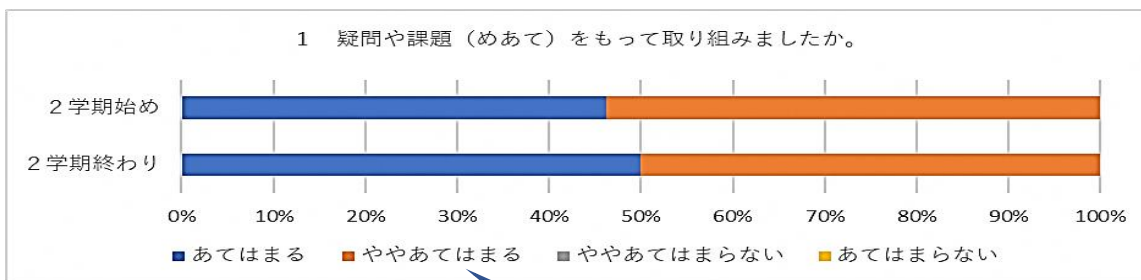
視点Ⅱについて、振り返りをさせる際の工夫（視点など）と実際の子どもたちの振り返りの様子をまとめています。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

板書については、実際に授業の板書を掲載しています。授業の中でICT機器を活用した途中の様子も含まれています。また、幼稚園については、活動の場づくりの工夫を掲載しています。

3 アンケートの結果から

① 関心・意欲，課題意識



② 見通し

③ 話し合い・学び合い(協働の学び)

④ 振り返り

⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）

子どもの学びの姿が客観的に捉えられるよう、また、学びの連続性を意識するため、段階ごとに調査しました。1回目は2学期始め、2回目は研究授業後11月初旬までの間にGoogleのフォームを活用して調査しました。

4 考察【○成果 ●課題】

【視点Ⅰ】

【視点Ⅱ】

【その他】

考察については、二つの視点に関して、アンケートの結果もふまえて成果と課題について述べています。また、課題をそのままにせず、具体的な改善案を考えました。その内容については、実際の改善指導案をご覧ください。【その他】については、視点以外の内容について、まとめています。

実際の指導案はこちらへ

QR

実際に使用した指導案と、改善策（黄色枠内）を考え追記した改善指導案をQRコードから読み取ることができます。

III 授業改善の実例

第5学年 国語科

【最後の場面の叙述を、それまでの場面の叙述と結び付けながら、物語の全体像をとらえて読む姿】をイメージした授業

油井小 西屋 純

1 本单元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	課題設定	全文を通読して初読の感想や考えをもったり、単元の学習課題を設定して学習を見通したりしている。	どんな場面が描かれているかを考えて通読し、初読の感想をもっている。(態)
2	構造・内容把握	場面ごとに中心人物「綾」の前に現れたものや人物を整理し、広島に行くまでの心情をとらえている。	登場人物の心情をとらえる際、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(知・技)
3	構造・内容把握	広島での「綾」の心情の変化をとらえている。	登場人物の心情をとらえる際、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(知・技)
4	精査・本時	最後の場面の叙述から中心人物の心情について読み深めることで、物語の全体像をとらえている。	表現の効果を考えることで、物語の全体像を具体的に想像している。(思・判・表)
5	考えの形成	作品を読んで理解したことや自分の考えの変化について感想や意見をまとめている。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(思・判・表)
6	共有	前時にまとめた自分の考えをグループで交流しているとともに、単元を振り返っている。	文章を読んでまとめた意見や感想を交流し、自分の考えを広げている。(思・判・表)

2 本時における研究の視点

視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

① 中心人物に影響を与えた人やもの(資料館の展示、祈念館の映像、おばあさん)の役割(中心人物に与えた影響)について考えさせることで、物語の全体像をとらえるきっかけになるようにする。

○ 中心人物に影響を与えた人やもの(資料館の展示、祈念館の映像、おばあさん)の役割(中心人物に与えた影響)について考えさせることで、物語の全体像をとらえるきっかけになるようにする。



資料館の展示品は綾に原爆のひどさを分かってほしいと伝えてるんだと思う。

祈念館の映像は色々な表情をした人が確かにいたことと、原爆がその人たちの人生を壊したことを伝えたいんじゃない?

② 異なる場面の叙述のつながりを示しながら中心人物の変容を話し合うことで、物語の全体像をとらえられるようにする。

○ グループや全体で話し合う際、自分の考えの共通点や相違点に着目させることで、根拠とする文章の解釈は人によってさまざまであることを実感させながら読み深められるようにする。

【全体での話し合い】

T: おばあさんの姿や言葉を、綾はどのように受け止めたのかな。

C: おばあさんの言葉によって、アヤちゃんの夢や希望を叶えようと思うようになった。

T: どこの部分からそのように考えたの?

C: 「ここでどんなに～すむかもしれない」ってところ。

T: この部分から他に考えている人もいるかな? ○○さんはどう?

C: 今のところ「この楠木アヤちゃんの～おくらしなさいよ」のところから、今の自分と重ね合わせて「アヤちゃんの思いを引き継ぐ!」って考えました。

視点II【学びの連続性につながる振り返り】

<振り返りの視点>

① この時間、どのように学習に取り組んだか(特にどこに力を注いだか)。

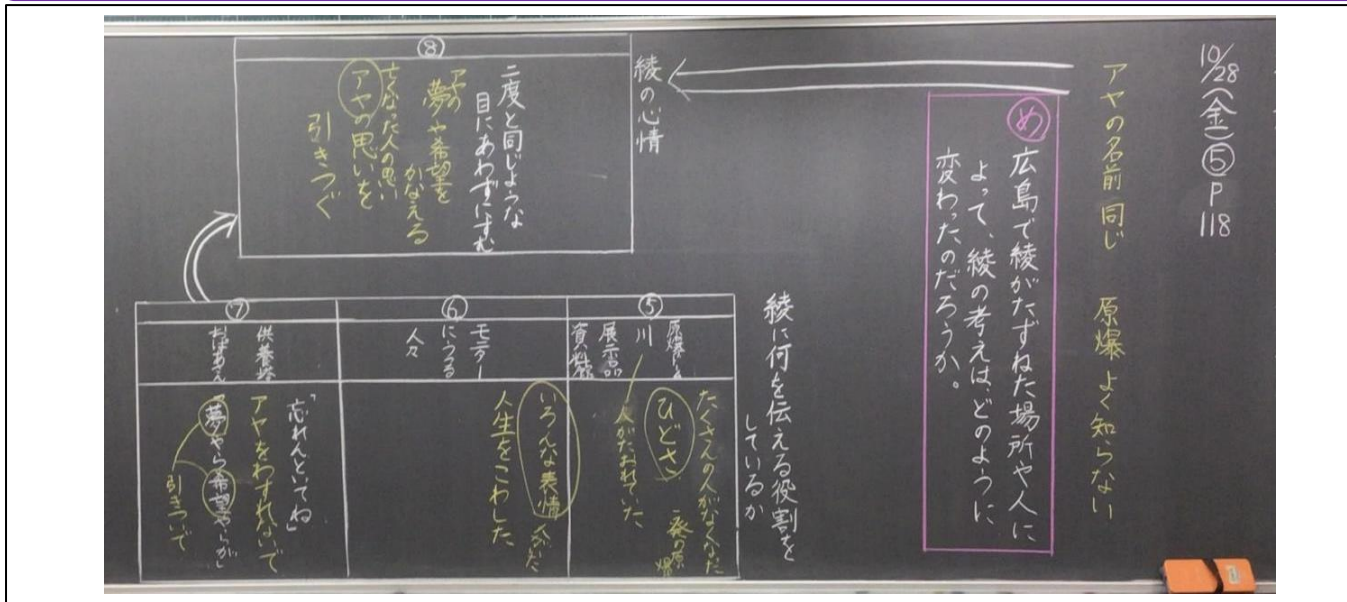
② よかった・参考になったと思った友達の考えは何か。 【本時で強調した視点】

綾は、自分と同じ「楠木アヤ」を探す中で、原爆で亡くなった人たちの夢や希望を引き継ぐ役割を学んでいたのだから、心情が大きく変わったことが分かった。

「きれいな川はきれいな川でしかなかった」など、難しい言葉が多いと思ったけど、言葉の意味を考えてみると、綾が戦争のひどさに衝撃を受けながら、その事実を受け止めようとしている気持ちがよくわかるようになってきた。

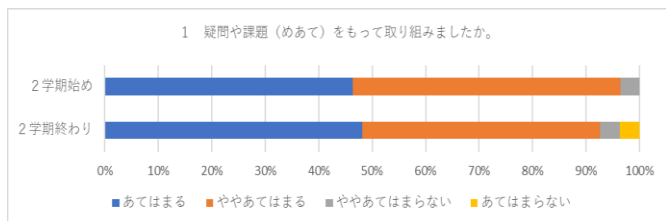
○○さんの「アヤちゃんの思いを引き継ぐ」という考えが参考になった。次はもっと友だちの意見を聞きながら学習したい。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

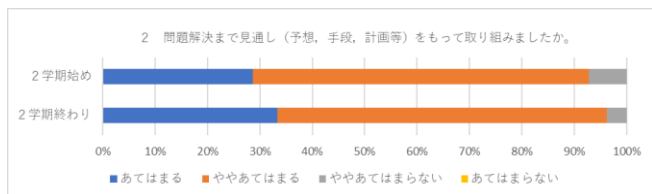


3 アンケートの結果から

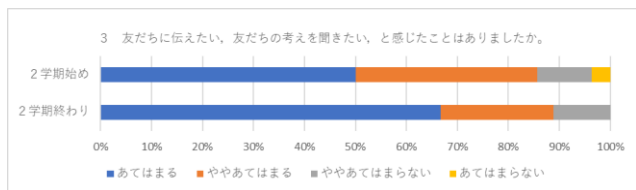
① 関心・意欲，課題意識



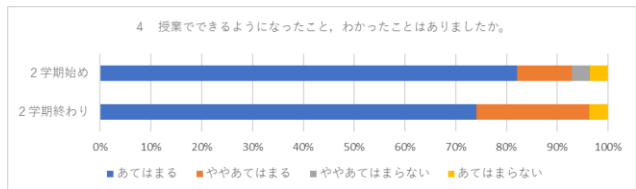
② 見通し



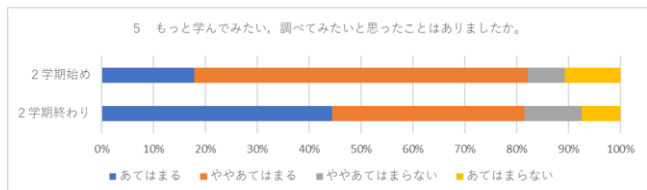
③ 話し合い・学び合い（協働の学び）



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



【視点Ⅰ】

○ 中心人物の変容は，展開場面で出会う人やもの（対役）によって起こることを，図を用いた板書に表すことで，明確にすることができた。

○ 「中心人物の変容に対役が果たす役割を考えるには，複数の場面の叙述のつながりを意識して読む必要がある」ことを，児童は互いの考えに関心をもって話し合うことをとおして気付くことができた。（アンケート③との関連）

● 当初は前時まで学習した叙述が最終場面でのようにつながっているか考える児童が少なかった。発問は「最終場面の『きれいな川は～』が意味することは何か」などとし，展開場面の叙述と結び付けて考えるなどの流れの方がよかった。

● 「綾が出会ったものや人の中で“いちばん”重要なのはどれか」といった取れん的思考を促す発問を工夫することで，よりねらいに沿った授業になったと考えられる。

【視点Ⅱ】

○ 言葉にこだわって読むよさを感じたり，友だちの意見から学びを深めたりしたことを振り返る姿が見られた。（アンケート⑤との関連）

● 「今日の学びをどのように生かしたいか」を問い，本時のねらいと結び付けて考えている児童の考えを紹介し，共有することで，今後の読書領域の拡充につなげたい。

実際の指導案はこちらへ

第1学年 国語

【場面や描写を比較しながら主人公の心情変化に気づき、物語の山場を捉えようとする姿】をイメージした授業

二本松一中 齋藤 真由美

1 本单元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動 (夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	見通す	・作品を通読し、登場人物の関係を整理しながら、今後の学習の見通しをもっている。	・時や場所、人物などを抑えながら、場面分けをしている。 (思・判・表)
2 3	考える 習得する	・場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化を表にまとめている。 ・比喩表現を探して、どんな情景や気持ちを表しているか考えている。	・「私」の気持ちが読み取れる表現に着目しながらまとめようとしている。 (思・判・表) ・場面ごとの状況や、場面と人物をなどの描写を結び付けて、内容を読み深めている。 (思・判・表)
4 本時	考える 対話する	・同じ物や場所について、それぞれの場面や描写を比べて読み、どんなことが読み取れるか話し合うことで、変化のきっかけとなった「山場」を確認している。 ・冒頭と結末の「銀木犀」に関する描写の違いを読み取っている。	・場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈している。 (思・判・表)
5	考える 習得する	・結末の一文が意味するものを考え、物語の続きを考えている。	・読み取ったことを生かして、作品の続きを考えようとしている。 (態)
6	振り返る	・完成した物語を紹介しながら交流し、学習を振り返っている。	・交流を通し、新たな読みにつなげている。 (思・判・表)

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

○ 生徒の気づきを生かして課題解決に迫り情景描写から主人公の心情変化を読み取る。

○ 課題を自分事として捉えることができるよう、前時で行った、同じ言葉を比較する方法で課題を解決することを確認し、これまでに読んだ場面と「同じ」物、場所、言葉などに着目・比較させることで「私」の心情変化を考える。

T：最終場面に出ている語句で、以前の場面でも出ていたものはあるかな。

C：銀木犀、ビニール袋、星の花があります。
T：最終場面でもくり返し出ている語句はあるかな。

C：あ、「大丈夫」というセリフが初めと終わりにあります。

T：「ここにいれば『大丈夫』と『大丈夫』やっていける」では明らかに感じ方が違う気がするね。

C：はい、最初の方は守られているから安心している感じで、後の方は成長した感じですよ。

T：「成長」ってどんな風にか？

C：夏実と仲直りできなくてもいいとか。

C：新しい友だち作ればいいってことだよ。

T：あんなに夏実にこだわっていたのにね。じゃあ「夏実にこだわらなくなった」と言える根拠はどこかな。

C：やっぱり「星の花」をビニール袋から落としたという場面しかないと思う。

T：どうして？

C：前はビニール袋の「星の花」はお守りで大事にしていたから、それを捨てたということはもう必要ないと判断した結果だと思っています。

T：ではここが山場の主人公の気持ちが変わった瞬間と言えるのかな。

C：でも捨てたってことは、もう決心がついてたってことだからもっと前に気持ちに変化があったのかもしれないよ。

C：なるほど、確かにここはもう迷いがなくなってる気がする。

T：では他にみんなが気づいた「銀木犀」にも目を向けて、気持ちが変わった瞬間を決定づける部分を探してみよう。

C：場面の最初は「銀木犀」の下に隠れていたのに最後は「銀木犀」から一步踏み出して行きます。

C：やっぱり気持ちが変わっていると言えるよ。途中で「銀木犀」は・・・

T：アニメや漫画で人物の気持ちが暗い感じから明るい感じに変わる時のイメージを考えてみてはどうか。

C：あ、「陽の光」か。この「葉っぱ」も「銀木犀」だ。

C：確かに「私」が見上げている瞬間だ。

視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

<振り返りの視点>

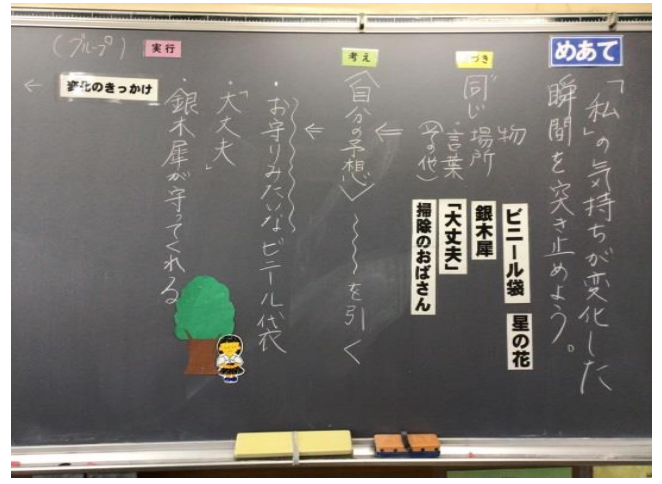
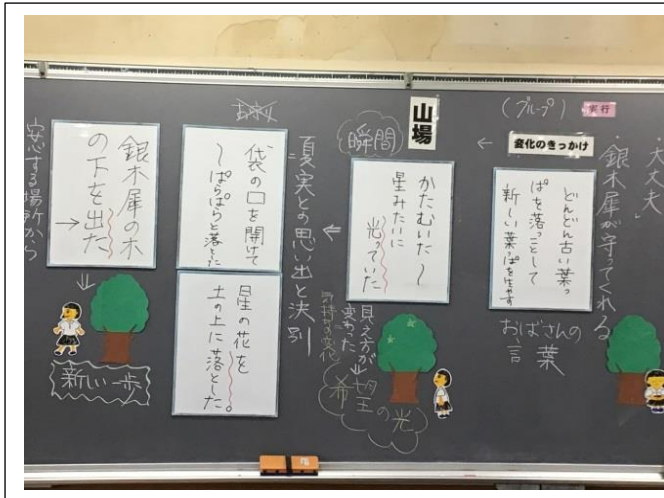
- ①自分の読みは適切であったか
- ②足りなかった考えは何か
- ③今後どの学習に活用できそうか

<生徒の振り返りから>

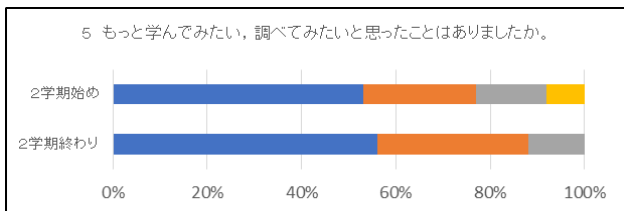
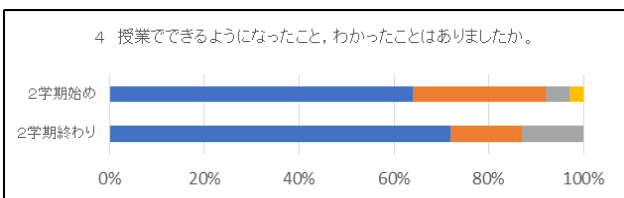
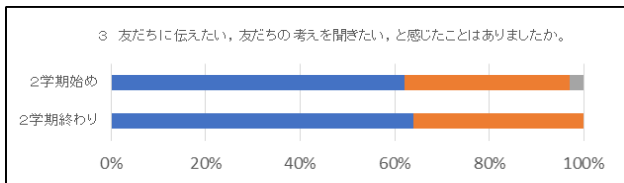
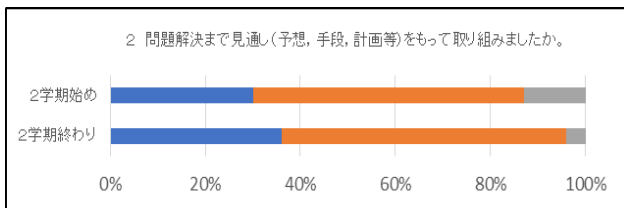
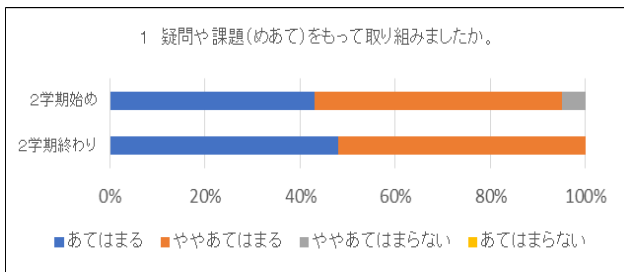
・最初は夏実にしがみついている感じで「銀木犀」から離れられなかった「私」が最後は「銀木犀」から離れて独り立ちできた「私」の姿が頼もしいと感じた。ただその間に「銀木犀」の見方が変わっている瞬間があったことに気づけなかった。何回も出てきた「銀木犀」が一番大事な「私」の心の成長の瞬間にも描かれていたから作品の題名にも使われていたのかなと思った。

・「気持ち」を表す言葉以外にも心情を知るヒントがあることがわかったので、これからの学習で活用したい。また、文章中に何度も出てくる言葉も気持ちの違いが隠れていて改めて読むと納得した。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】



3 アンケートの結果から



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点 I】

○ 前時までの課題解決方法を生かして取り組んだことで、見通しをもって学習活動に取り組む生徒が多かった。

● 比較できる語句に複数気づいた生徒が多く、考えるための視点が広がってしまった。本時の授業では、情景描写に着目して「気持ちが変わった瞬間」を捉えさせるため、作品の題名や冒頭部分にもふれることで、物語の象徴となる「銀木屋」に的を絞り、心情変化を考える時間を確保する必要があった。

【視点 II】

○ 個→小グループ→全体と、様々な方法で自分の考えと他の考えを比較させたことで、自分の読みの有効性や不足していた部分に気づき、個の実態を把握することができた。

● 単元を通して習得した様々な読解の手がかりを、今後の学習に活用するために、毎時間の振り返りを蓄積して必要な場面で確認できるよう、振り返りシートを工夫していきたい。

【その他】

・ 班活動では、グループの考えを事前にタブレット端末に書き込ませることで、全体での意見交換の時間を十分に確保していきたい。

実際の指導案はこちらへ

第5学年 社会

【地域に伝わる伝統が工業に活かされていることに気づき、工業の発展について調べる意欲を高める姿】をイメージした授業

油井小 小野 真樹

1 本單元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1 本時	見通す	・ 二つの製品の価格が大きく違うのはなぜか考えることを通して、伝統や優れた技術を生かした工業があることに気付いている。	・ 価格が大きく違うのはなぜか考え、調べようとしている。(思・判・表) (態)
2	教わる 考える	・ 北陸地方の工場では、昔から伝わる技術をどのように生かしているか調べている。	・ 資料から必要な情報を読み取り、伝統を生かした工業の様子について理解している。(知・技)
3	教わる 考える	・ 大田区では、優れた技術を生かして国内外で評価されるような製品をつくっていることを調べている。	・ 資料から必要な情報を読み取り、優れた技術を生かした工業の様子について理解している。(知・技)
4	考える 対話する	・ 日本の工業には、資源の確保や人口減少、環境への配慮など、様々な課題があることを調べ、新たな取り組みをしていくことが必要であることについて考えている。	・ 資料を読み取り、日本の工業生産の課題について考え表現している。(思・判・表)
5	考える 振り返る	・ 工業生産の学習について振り返り、特色についてまとめている。 ・ これからの工業生産のために大切なことについて理由を明確にしてランキング形式にして考えている。	・ 学習したことをもとに、これからの工業の発展に大切だと思うことを考えている。(思・判・表)

2 本時における研究の視点

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学び 自分事として捉える指導の工夫】

- ① 同じように見える製品の価格を提示し、児童の認識のずれから課題意識を高める。

- 価格の違うお椀の写真を提示して価格の違いの理由について考えさせ、どうして同じような製品でも価格に大きな違いがあるのか、生産量や作り方などの違いに気付かせることで、本時の問いをもたせる。

② Bの方が値段が高いのはなぜだろう?

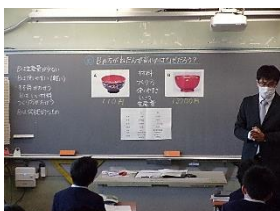
A B

材料 作り方 材料 作り方
110円 13200円

生産量

Aは生産量が少ない
Bは使いやすい(軽い)
材料がちがう
Bはいい材料
作り方がちがう

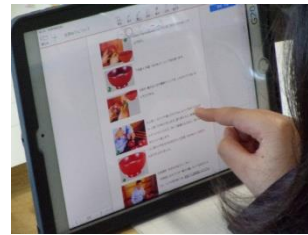
- 課題を解決するためには、どのような情報を集めればよいか話し合い、調べることを焦点化することで、解決への見通しをもたせる。



T:価格が違う理由を考えるためにはどんなことが分かればいいのか?
C:どこで作っているか。
C:材料は何か。
C:作り方のちがい。

- ② 福島県の伝統的な工業を取り上げ、昨年度までの学習と関連性や連続性をもたせることで、技術を生かした工業への関心を高める。

- 価格が高い方のお椀は伝統的な技術を生かした会津塗の製品であることを伝え、製造工程を調べさせることで、多くの手間や工夫があることに気付かせる。



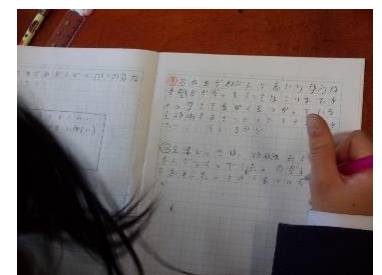
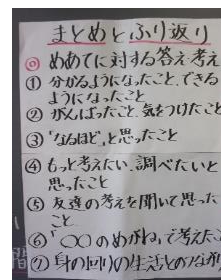
C:一つ一つ手作りしているね。
C:ほこりが入らないように気を付けているよ。

視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

<振り返りの視点>

- ① 「なるほど」と思ったこと
- ② もっと考えたい、調べたいと思ったこと
- ③ 身の回りの生活とのつながり

本時の学習を振り返ることで、生活に身近な工業製品の見方を考えたり、他の製品や地域はどうかなど、調べる際の視点を増やしたりすることができるようにする。



<児童の振り返りから>

- 同じような物でも技術をみがいた人が作ることで値段が高い。家にもそういう物があるか調べてみたい。
- 会津漆器は400年も前から続いていてやっぱりすごいと思った。ほかにも同じように昔から続いている物があると思うので、これから調べていきたい。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

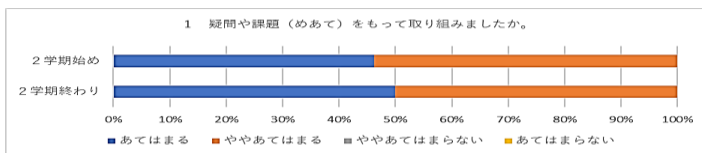


↑ 本時で特に振り返ってほしいことを提示し、焦点化した。

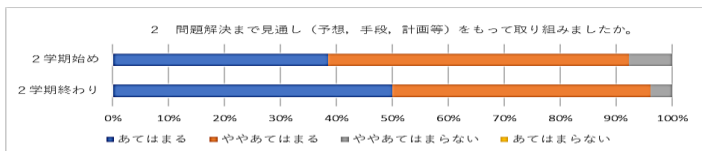
← 本時の問いを引き出すため2種類のお碗の写真を中心に提示して比較させた。

3 アンケートの結果から

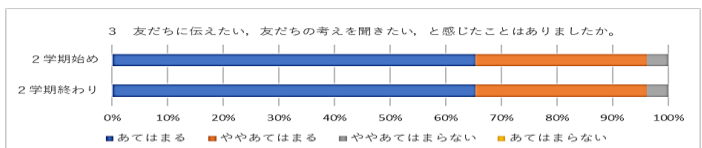
① 関心・意欲, 課題意識



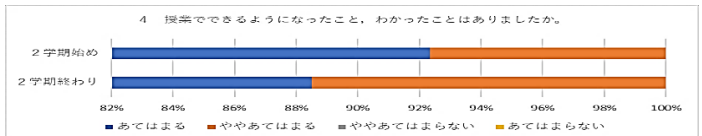
② 見通し



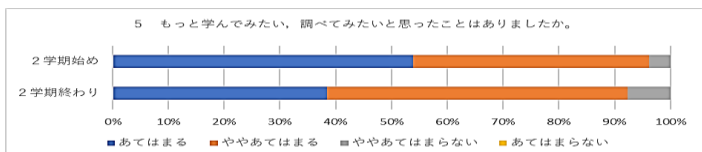
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ(学びの連続性)



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

○ 本小単元は、これからの工業について様々な視点から考えていく大単元のまとめの単元である。そこで、児童が前学年の社会科や国語科で学習してきた

いる会津漆器を取り上げ、学習に関連性や連続性をもたせることで、課題解決への意欲を高めるようにした。また、お碗という生活に身近な工業製品を扱うことで、課題を自分事として捉えることができるようにした。アンケートの結果①②を見ると、課題意識や見通しをもって取り組むという意識が高まり、課題を自分事として捉えている様子が伺える。

● 本時では、児童が予想を立てて話し合うなど、調べるための見方を広げる様子が見られたが、実際に調べ始めるまでに時間がかかった。そのため、児童の見方が広がりつつある段階で資料を提示し、実際に調べる活動を十分に確保することにより、資料から根拠となることを見つけ、根拠をもとに考えを深める学習につなげることができると考える。

【視点Ⅱ】

○ 本時では、特に「身近な生活とのつながり」を中心に振り返るようにしたことで、家庭にある工業製品を見直す姿が見られた。児童は社会的事象を見るとき視点をもつことができた。

● アンケートの結果④⑤を見ると、学びを実感する振り返りが十分にできていないことが伺える。身近な生活との関わりに目を向けている振り返りや次時への意欲を高めている振り返りを取り上げることで価値付けを図り、次時の学習や新たな学びへの意欲を高めていくことが必要である。

実際の指導案はこちらへ

第2学年 社会

【資料をもとに、根拠を見つけながら課題を追及している姿】をイメージした授業

東和中 先崎 貴徳

1 本單元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	見通す。 考える。	江戸中期の人々の生活はどのように変わっていくか予想している。 農具の進歩が農村をどのように変えていったかを考えている。	武士、百姓、町人などの立場から予想している。(態) 各地に特産物が見られる要因を農業の進歩と関連付けて考えている。(思・判・表)
2	調べる。 対話する。	三都の特徴を調べている。 なぜ、交通網が発達したかを考えている。	交通網の発達を都市や商工業の発達と関連付けて説明している。(思・判・表)
3	調べる。 対話する。	徳川綱吉の行った政治のあと、社会がどのように変わっていったかを話し合っている。 元禄文化の特徴を調べている。	綱吉後の幕府の政治的課題を捉えている。(思・判・表) 元禄文化の特色を理解している。(知・理)
4	調べる。 対話する。	享保の改革の内容を調べ、評価している。	享保の改革の内容を理解している。(知・理)
5	考える。 対話する。	話し合いを通じて、一揆や打ちこわしが増えていった理由を多角的・多面的に考えている。	貨幣経済の浸透がなぜ百姓にとって厳しかったか、説明している。(思・判・表)
6	考える。 対話する。	田沼の政治と寛政の改革を評価し、長続きしなかった理由を考えている。	田沼の政治と寛政の改革の内容を評価し多面的・多角的に結果を考察している。(思・判・表)
7	考える。 対話する。	大塩の乱や外国船の出現は幕府政治にどのような影響を与えたか資料をもとに考えている。	大塩の乱や外国船の出現が幕府にどのような影響を与えたか、天保の改革と関連付けて説明している。(思・判・表)
8	調べる。 考える。	タブレットを使い、化政文化期の学問や文化を調べている。 教育の普及など、社会の変化との関わりを考えている。	社会の変化の中で発展した学問や作品について意欲的に調べている。(態)
9	振り返る。	幕府の政治改革と社会の変化のイメージマップを作り、整理している。	社会の変化と幕府の政治改革を関連付けて、時代全体を説明している。(思・判・表)

2 本時における研究の視点

視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

- 財政再建の視点から、改革の内容について根拠をもって評価させる。

- 見通しをもって学習に取り組むことができるよう授業の流れを提示し内容を焦点化する。

<授業の流れ>	
15分 (班)	① 2人の行った政治内容を調べて、評価する (教科書・資料集・タブレット等を用いて)
10分 (全体)	② それぞれの政治の良い点と残念な点を予想する 各班の発表をもとに確認する

- 教科書や資料集でそれぞれの政策の内容を確認します。
- 政策ごとに評価します。評価するときはそう考えた理由を考えてください。

- 改革の内容を資料集や教科書を使って調べ、改革の効果のあった点や評判が悪かった点について、根拠を明確にさせながら考えさせる。



- S1 この帰農令とは何ですか。
T 漢字の意味を考えて、教科書を読んでみてください。
S2 「江戸に働きに来ている百姓を農村に返す」ですか。
T 正解です。
S1 お金のない百姓は自分の村に帰れないのではないのでしょうか
T この史料を見ると、「幕府が百姓に旅費を出すこともある」と書いてあります。評価のポイントとして考えてみてはどうですか。
S1 百姓が農村で米作りに専念できれば年貢収入は安定すると思うので、良いと思います。
S2 旅費を幕府が出すということは、かなりのお金を使うから、財政再建の視点からみると効果が薄いのではないのでしょうか。
T 将来的なことも考えてはどうでしょうか。

- それぞれの改革内容を「農業」「商工業」「その他」に分類する。財政再建の視点から考えさせる。

<生徒のワークシート>

1 改革の内容を評価しよう

改革名	田沼の政治	寛政の改革
行った人物	田沼意次(老中)	松平定信(老中)
内容	1 株仲間奨励 2 長崎貿易の開拓 3 印旛沼の開拓 4 蝦夷地調査(怪物)	1 帰農令 2 商品作物の制限 3 村にコメの備蓄庫を作る 4 朱子学以外の学問禁止 5 倭約令 6 出版統制
財政再建のポイント	商人(商)を中心収入を得る	百姓(民)を中心収入を得る
良い点	商業の繁栄 学問・文化の発展 お金の集まる	財政がなくなり、政府が楽になる 株仲間、武士の働きがなくなった 貨幣経済の発展、農村に蓄積の場が広がった
残念な点	印旛沼の開拓失敗 - お金が足りず、1710年に行けず 会(銀行)の設立	厳しすぎた 百姓の反感を買った 農村に蓄積の場が広がった

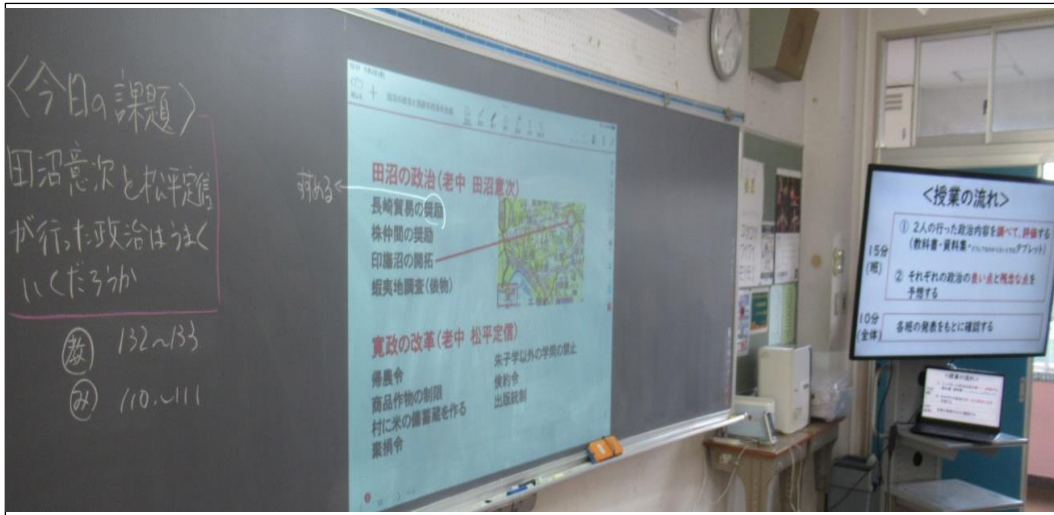
視点II【学びの連続性につながる振り返り】

- 田沼の政治と寛政の改革の内容と結果を再考し、社会の変化と関連付けて説明することができる。

<生徒の振り返りから>

田沼の政治は、お金が集まり内容は良いが、消費も多く、賄賂政治が横行したので失敗だと思います。寛政の改革も、内容は悪くないと思いますが、厳しすぎて人々の反感をかってしまいました。どちらも財政を立て直そうとしているのはわかりますが、うまくいかなかったのが、政治を立て直すことは難しいことだと思いました。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

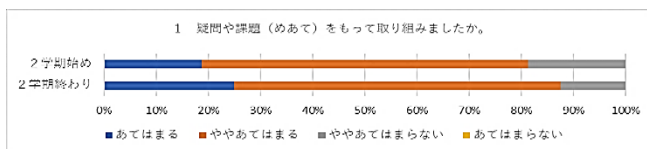


<板書構成の意図>

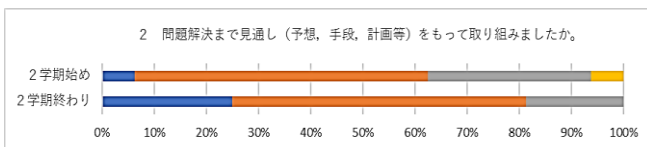
- ・ 上段に「田沼の政治」、下段に「寛政改革」を配置し、比較しやすいようにした。
- ・ 生徒のタブレットに黒板と同じ画面を配布し、手元で見ることができるようにした。
- ・ サブモニターを補助的に使用し、資料などを提示した。

3 アンケートの結果から

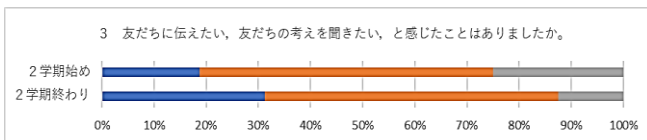
① 関心・意欲, 課題意識



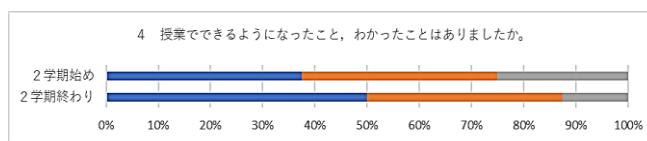
② 見通し



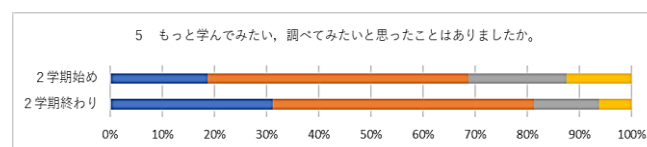
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ(学びの連続性)



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 生徒は資料からそれぞれの政策の内容を理解し、各政策の良い点や評価の悪かった点について、根拠を明確にして伝え合うことができた。
- 全体で各班の評価を確認する場面では、「帰農令」について根拠を見いだせず困っている班があったので、全体で取り上げ、考える場面を設定した。「百姓への旅費支給」に対する意見のやりとりによって

より根拠を明確にすることができ、最初に考えた評価を変える班もあるなど全体でも評価の根拠を明確にすることができた。

- 評価する政策が多く、それぞれの内容で調べていたため、全体で確認するまで時間がかかった。各政策については、簡単に解説をして内容を理解してから評価させるか、前時に内容を調べさせてから本時を位置付けるなど、どこに焦点を当てるかを明確にした単元構想や授業構想が必要である。
- 時代背景や人物像への興味を高める導入を行い、改革の結果を知りたいという追究意欲を高めて学習に入ると更に効果が高まったと考える。また、幕府の立場から考えるなど、生徒の考える視点を明確化することで、事実と背景を関連付けて学ぶことができたと考える。

【視点Ⅱ】

- 田沼の政治と寛政の改革における財政再建政策は効果があったことを理解した生徒が多かった。また、資料をもとに根拠を明確にしたことで、効果があった点や評判が悪かった点を整理して結果を考えることができた。
- 本単元では、都市や農村で産業が発展し、貨幣経済が広がっていくことを学習したが、あまり社会の変化と幕政改革を結びつけて考える姿は見られなかった。幕府の立場だけでなく、商人や百姓の立場から考えるなど、いろいろな視点を与えることでさらなる見方・考え方が広がると考えた。

実際の指導案はこちらへ

第5学年 算数科

【自分なりの根拠をもち、図や式、言葉に関連させながら、単位量当たりの大きさの求め方や比べ方について説明する姿】をイメージした授業
小浜小 佐藤 裕美

1 本単元における夢中になって学ぶ姿

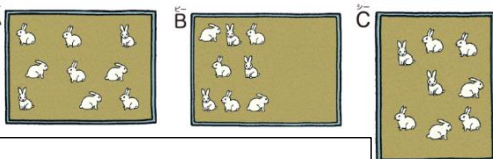
時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1 2 3 本時	見通す 習得する 考える 対話する	うさぎ小屋の面積とうさぎの数の関係に着目し、混み具合の比べ方を考えている。 混み具合の比べ方をまとめ、「単位量当たりの大きさ」の意味を理解している。	単位量当たりの大きさをを用いて比べることの意義を理解し、混み具合を比べることができる。(知・技) 混み具合の比べ方を、面積と匹数の関係に着目して図や式を用いて考え、説明している。(思・判・表) 混み具合は2量の割合としてとらえる量であることに気づき、図を使って、面積、匹数が異なる場合の混み具合の比べ方を考えようとしている。(態)
4	習得する 対話する	「人口密度」の意味とその求め方を理解している。	人口密度の意味を理解し、人口密度を求めることができる。(知・技) 人口の混み具合の比べ方を、面積と人数の関係に着目して考え、説明している。(思・判・表)
5	考える	単位量当たりの大きさをを用いて、問題を解決している。	単位量当たりの大きさをを用いて、2つの資料を比べることができる。(知・技)
6	考える 対話する	単位量当たりの大きさに着目し、速さの表し方を考えている。 混み具合と速さの比べ方を、単位量当たりの大きさとして統合的にとらえている。	単位量当たりの大きさの考えを基に、速さの比べ方を図や式を用いて考え、説明している。(思・判・表) 速さの比べ方を時間と距離の2量を基に、単位量当たりの大きさの考えを用いて考えようとしている。(態)
7	習得する	速さを求める公式を理解し、それを適用して速さを求めている。	速さの表し方を基に、速さを求める公式をつくり、速さを求めることができる。(知・技) 時速、分速、秒速の意味を理解し、時速、分速、秒速を求めることができる。(知・技) 速さを求める時に使う2量を着目し、速さを求める公式を表すことを考え、説明している。(思・判・表)
8	考える 活用する	道のりを求める公式を理解し、それを適用して道のりを求める。	速さを求める公式を用いて、速さと時間から道のりを求める公式を導き、道のりを求めることができる。(知・技) 速さを求める公式を基にして、道のりを求める公式や図や式を用いて考え、説明している。(思・判・表)
9	考える 活用する	速さと道のりから時間を求める方法を考えている。 速さ、道のり、時間の求め方を統合的にとらえている。	道のりを求める公式を用いて、速さを道のりから時間を求めることができる。(知・技) 道のりを求める公式を基にして、時間の求め方を図や式を用いて考え、説明している。(思・判・表)
10	活用する	「いかしてみよう」に取り組んでいる。	学習内容を適切に活用し筋道を立てて考え、問題を解決している。(思・判・表) 学習内容を生活に生かそうとしている。(態)
11	振り返る	「たしかめよう」に取り組んでいる。 「つないでいこう」算数の目に取り組んでいる。	基本的な問題を解決することができる。(知・理) 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。(思・判・表) 単元の学習を振り返り、価値付けたり、今後の学習に生かそうとしている。(態)

2 本時における研究の視点

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

前時までの学習を振り返ることで、課題を焦点化することができるようにする。

- 面積が等しい A と B の小屋とうさぎの数が同じ B と C の小屋の比べ方を全体で確認することで、面積も数も異なる場合に着目することができるようにする。



- ・面積が同じ時、数が多い方がこんでいる。
- ・数が同じ時、面積が小さい方が混んでいる。

相手を意識して説明したり、聞いたりする時間を意図的に設定する。

- ペアや小グループでの話し合いを意図的に取り入れ、自分の考えを深めたり、自分の考えに自信をもったりすることができるようにする。



僕の考えとは違うね。でも、その考えもいいね。

どうしてこの式になるかは、ここを見てよ。



視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

振り返りの視点を与えることで、本時の自分の学びを振り返ることができるようにする。

<振り返りの視点>

- ① 分かったこと
- ② 友達のよかったところ
- ③ もっと考えてみたいこと

<児童の振り返りから>

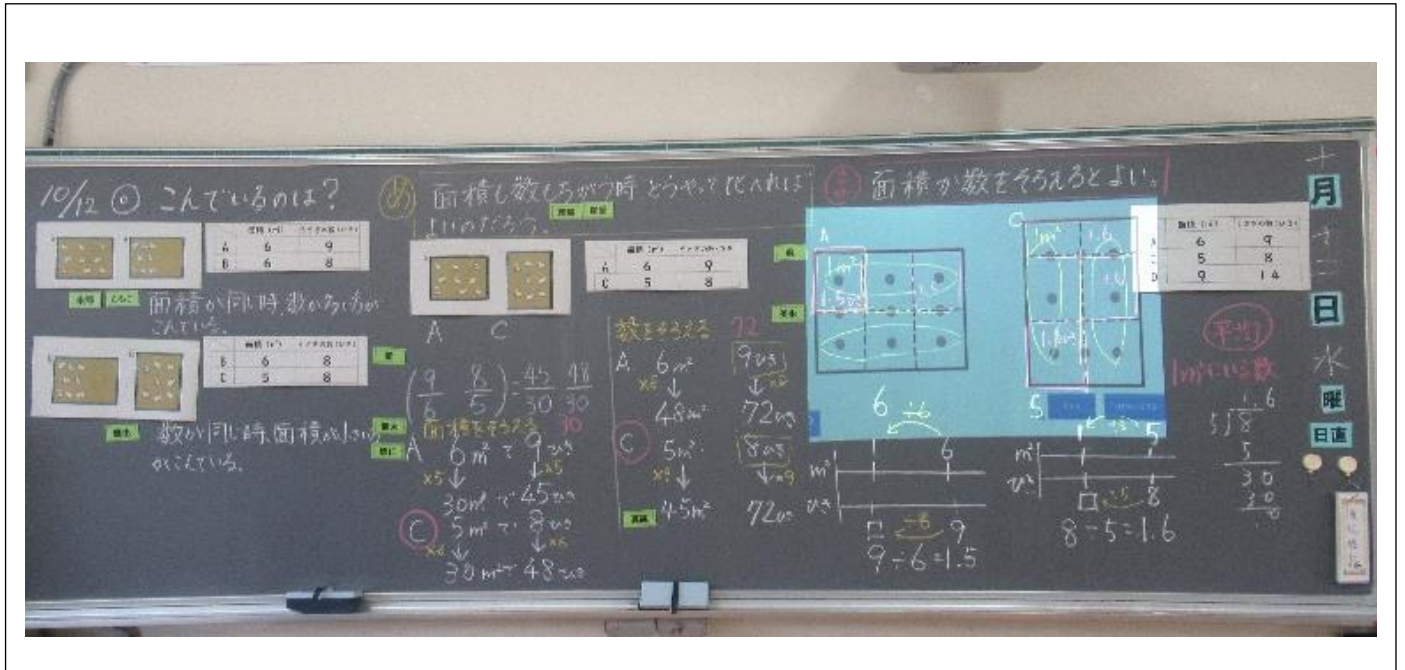
- ・面積か数が同じだったら簡単なのに、面積も数もちがうととても難しくなるんだなと思いました。
- ・今日の問題は難しかったです。でも、近くの人に説明できてよかったです。
- ・明日は、A, C, D の面積の最小公倍数を見つけて、面積をそろえればいいと思います。

	面積 (㎡)	うさぎの数(ひき)
A	6	9
C	5	8
D	9	14



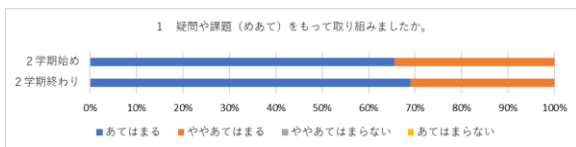
【予告した次時の課題】

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

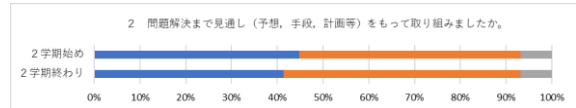


3 アンケートの結果から

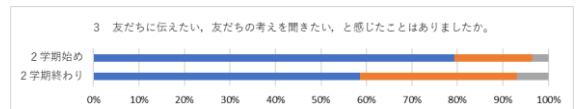
① 関心・意欲，課題意識



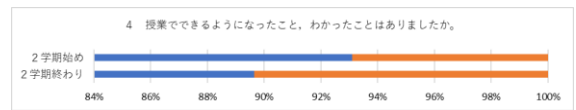
② 見通し



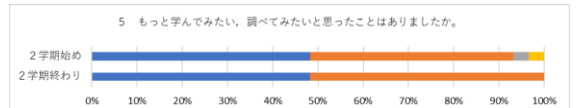
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ(学びの連続性)



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 前時までの学習を振り返ることで，面積もうさぎの数も違うから比べられないということをしっかりと捉えさせることができた。
- 確認したことを板書したことで，どちらかをそろえたときに，多い方がよいのか少ない方がよいのかをはっきりと確認させることができた。
- ペアやグループでの話し合いを意図的に取り入れ

ることで，相手意識をもって話したり，自分の考えを深めたりすることができた。

- 面積やうさぎの数が公倍数を使って大きくしたくなる数だった。そのため，公倍数でそろえた方がよいと思う児童が多かった。1あたりで求めたくなる数字で提示するとよかった。
- 1匹あたりの図を書いている児童の考えを取り上げ，どのように考えたのかを考えさせたり，友達と話し合わせたりする。そうすることで，単位量当たりの考え方のよさに気付かせる。

【視点Ⅱ】

- 振り返りの視点を提示することで，自分の言葉で振り返りを書くことができた。継続して取り組んでいるため，自然に視点に沿って振り返る姿が見られるようになった。
- 本時の中で，振り返りの共有までは時間がなかった。次時の導入に，紹介したり，発表させたりすることで，本時と次時をつないでいきたい。

【その他】

- ・ タブレット端末で児童のノートを画像にして，黒板に映すことで，短時間で考えを共有させることができた。
- ・ 教師用デジタル教科書のコンテンツを使って，1㎡あたりのうさぎの数を視覚的にとらえさせた。

実際の指導案はこちらへ

第1学年 数学

【過不足の問題で、異なるなる2つの方程式を比較・推測する活動を通して、未知数に着目させ何を文字で表しているかを考察し表現する姿】をイメージした授業
安達中 菅野 耕司

1 本単元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
10	見通す 対話する	未知の数量を求める場面で既習事項を振り返りながら方程式の必要性を理解している。	方程式の必要性と意味を理解している。(態)
20	習得する	方程式とその解の意味を理解し、文字にあたりを代入して方程式の解を確認している。	方程式の中の文字や解の意味を理解している。(知・技)
30	考える 習得する	具体物の操作などを通して等式の性質を知り、これを基に一元一次方程式を解く方法について考察し表現している。	等式の性質を基に一元一次方程式を解く方法を考察し表現している。(思・判・表)
40	考える	一次方程式を解くときに、移項することで能率良く解くことができることを理解している。	等式の性質と移項の意味を理解している。(思・判・表)
50	習得する		
60	習得する	移項して一次方程式を解いている。	簡単な一元一次方程式を解いている。(知・技)
70			
80	考える 対話する 活用する	かっこ、小数を含む一次方程式を解いている。	既習事項を活用して、一次方程式を解いている。(思・判・表)
90	考える 対話する 活用する	小数、分数を含む一次方程式の効率よく解く方法を考察している。	効率よい一次方程式の解き方を考察している。(思・判・表)
100	考える 対話する 活用する	身近で現実的な問題を解決する場面で、方程式を利用する考え方や手順を理解するとともにそのよさについて考察している。	具体的な事象を方程式を利用して、その良さを考察している。(思・判・表)
110	考える 対話する 活用する	個数と代金に関する問題など具体的な場面で、方程式を活用して解決する方法を理解している。	事象の中の数量の関係に着目し、方程式を作ることができている。(思・判・表)
120	考える 対話する 活用する	過不足などの具体的な問題場面で、方程式を活用して解決する方法を考察している。	一次方程式を具体的な場面で活用できている。(思・判・表)
130	考える 対話する 活用する	速さに関する問題を解決する活動を通して、方程式の解の吟味の必要性と意味について考察している。	一次方程式を具体的な場面で活用することができている。(思・判・表)
140	考える 習得する	比例式の性質を知り、それを用いて比例式を解いている。	簡単な比例式を解くことができている。(知・技)
150	考える 対話する 活用する	具体的な問題を、比例式の性質を利用して解決する方法を考察している。	比例式を具体的な場面で活用することができている。(思・判・表)
160	振り返る	単元全体の学習内容について、その定着度や習熟度について自己評価している。	既習事項が理解し、正しく処理している。(思・判・表)

2 本時における研究の視点

視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

見通しをもって思考・考察ができるよう、複数の未知数を求める問題で何を文字で表したかによって、立式できる方程式やその解が異なることを確認する。

○ 未知数が複数ある場合、文字であらわす数量によって立式される方程式やその解が異なることを確認する。

前時の復習

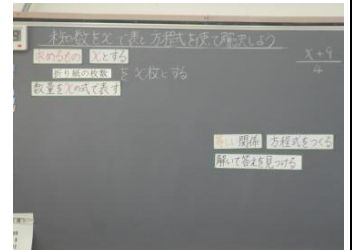
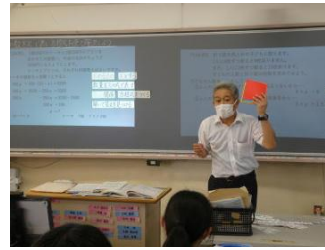
$$\begin{aligned} \text{ケーキを}x\text{個買ったとすると、} \\ 350x + 250(10 - x) = 3200 \\ x = 7 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{プリンを}x\text{個買ったとすると、} \\ 250x + 350(10 - x) = 3200 \\ x = 3 \end{aligned}$$

○ 前時の手順に従い、等しい関係に着目させることで、2つの式が表す「折り紙の枚数」が変わらない関係にあることに気づかせる。

方程式を利用して問題を解くときの手順

- ① 求めるものを x とする。
- ② 数量を x の式で表す。
- ③ 等しい数量の関係から、方程式をつくる。
- ④ 方程式を解いて、答えを見つける。



視点II【学びの連続性につながる振り返り】

分かったこと、参考になった考え、どんな場面で活用しているか、次にどんな学習をしたいのかなどの視点を与える。



学習の確認シート

◇めあての達成度 (2, 4, 3, 2, 1)

◇今日の授業で「大切だと思ったこと」、「友達の前で頑張ったこと」は何ですか?

◇「次の時間に頑張りたいこと」は何ですか?

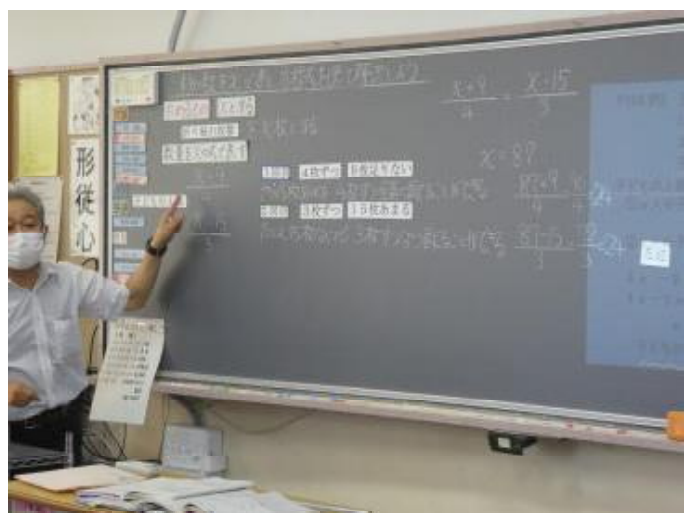
◇「わからなかったこと」や「できなかったこと」がある? YES NO → Good job

◇わからない できないことは何?

生徒の振り返りから

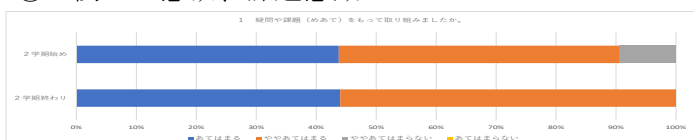
- 何を x にするかが大事。
- 何を x としたかを、書くことを忘れないように気をつける。
- 「足りないのか」、「余るのか」についてよく考える。
- 分数の方程式は難しい。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

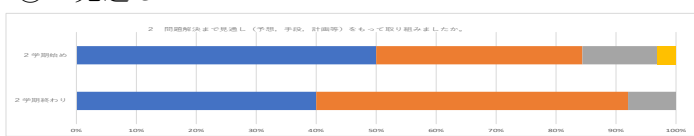


3 アンケートの結果から

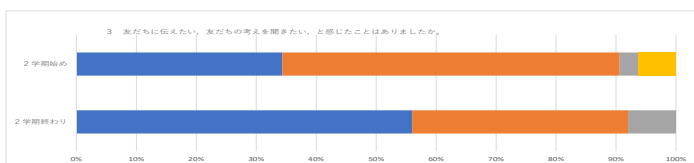
① 関心・意欲、課題意識



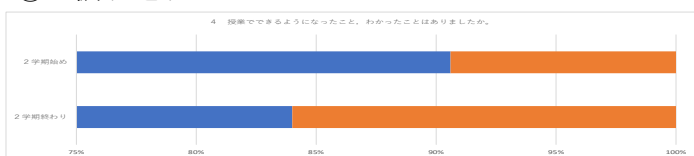
② 見通し



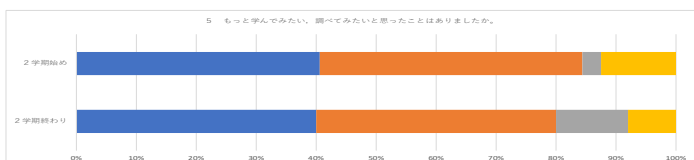
③ 話し合い・学び合い（協働の学び）



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

○ 子どもの人数を x 人とした教科書の例題のような解法については、プレゼンテーションで短時間で確認する形にした。

その分、折り紙の枚数を x 枚とした場合の方程式を読み解く学習活動に多くの時間を確保することができた。

○ 難易度の高い学習内容にも関わらず、子ども達は一生懸命に、式の演算子や数字から、その意味を読み解こうと思考し、小集団で意見を出し合うなどして、式が意味するものは何かについて推察していた。

数式と言葉をつなぎ合わせるという表現力を問う活動は、今後、自力で数式を立式する場面に役立つと思われる。

● 子どもの人数を x 人とするチームと折り紙の枚数を x 枚とするチームの2つに分けて、最初からグループで考えさせることで学び合いの時間を多く確保できたかもしれない。

● 言葉や式で表現する力が弱いからこそ、書かせたり考えさせたりする時間を多く設定する必要がある。

【視点Ⅱ】

○ 年間を通して、「学習の確認シート」を使っでの「振り返り」を行ってきたため、生徒達はシートを配付すると自然に授業や活動の中で思考したことや友達の意見、大切だと思ったことなどを記入するようになってきた。

今後は、その「振り返り」を次時の活動へとつなげるコーディネートを効果的にできるようにしたい。

● 今回の授業では、活動を「振り返って」気づいたことをもとに「まとめ」てしまった。

今後は、まとめと振り返りの違いを意識し、次時の活動や次単元へつなげるためにも「振り返り」を大切にしていきたい。

【その他】

● アンケート結果から①～③については多少ながら向上しているが、④、⑤に関しては低下してしまい、振り返りと学びの連続性が今後の大きな課題として残った。

実際の指導案はこちらへ

第4学年 理科

【玉を詰めて飛ばしたときのことや生活経験を基に、空気の体積や押し返す力の変化について根拠のある予想をし、表現する姿】をイメージした授業
 渋川小 山口 美由紀

1 本単元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力等
1	課題設定	・プラスチックの筒に詰めた玉を飛ばし、玉の飛び方について気づいたことや疑問に思ったことを話し合う中で、問題を見出している。 問題「とじこめた空気は、おさると、どうなるのか」	・気づいたことや疑問に思ったことから、差異点や共通点を基に問題を見出している。 (思・判・表)
2 本時	課題設定	・閉じ込めた空気を圧すと空気はどうなるのかについて、学んだことや経験したことを基に予想している。	・既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想をし、表現している。 (思・判・表)
3	実験	・注射器に閉じ込めた空気を圧して、体積や手応えを調べている。(実験1)	・閉じ込めた空気を圧したときの体積や手応えについて調べ、結果を分かりやすく記録している。(知・技)
4	分析解釈	・閉じ込めた空気を圧したときの体積や手応えをまとめている。 ・筒に詰めた玉が飛び出す理由について考えている。	・既習事項を生かして、筒に詰めた玉が飛び出す理由について考えようとしている。 (徳)
5	課題設定 実験	・閉じ込めた水を圧すと水はどうなるのかについて、学んだことや経験したことを基に予想している。 ・注射器に閉じ込めた水を圧して、体積の変化を調べている。(実験2)	・閉じ込めた水を圧したときの体積や手応えについて調べ、結果を分かりやすく記録している。(知・技)
6	分析解釈 振り返り	・空気と水の性質の違いをまとめている。	・空気と水の性質の違いについて、実験結果を基に考察し、表現している。 (思・判・表)
7	活用 振り返り	・豆腐の容器に水が入っている理由を考えている。 ・ポットの仕組みについて考えている。	・空気の押し縮められる性質や水の押し縮められない性質を使った日常生活における題材について考えようとしている。 (徳)

2 本時における研究の視点

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

- ① 筒の中の空気の様子のイメージをもちやすくするために、**演示や写真などで、棒を押し始めたとき、棒を押し込んでいるとき、玉が飛び出した直後と段階別に提示する。**

- **筒に詰めた玉を押し始めたときの写真で空気が閉じ込められていることを確認する。**

前玉が飛び出す直前の写真で空気の体積変化に着目できるようにする。

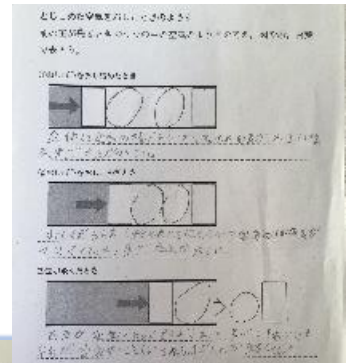
前玉が飛んだ直後の写真で後ろ玉が前玉に触れていないのに飛んだことを確認する。



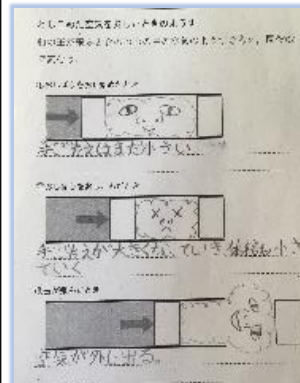
- ② **風船やボールを準備し、空気の体積変化や手応えを実際に手に取って感じられるようにする。**

- **予想が書けない児童には、風船やボールなど、身の回りにある空気を閉じ込めた物で感じたことを基に考えさせる。**

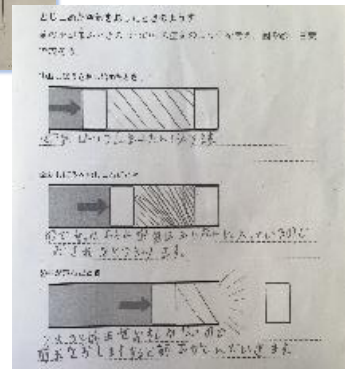
粒の形で表す



表情で表す



斜線で表す



視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

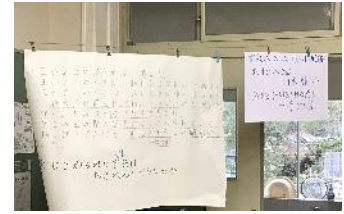
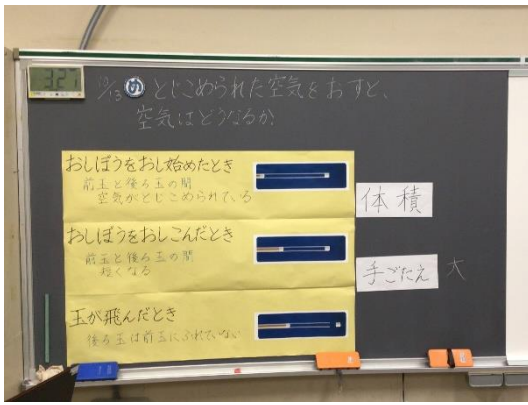
<振り返りの視点>

- ① 他の考えに触れて新たに気づいたこと
- ② 自分の考えを見直したこと
- ③ 授業の中で何が手がかりになって問題解決まで至ったか
- ④ 学習を終えて新たな疑問は生じたか

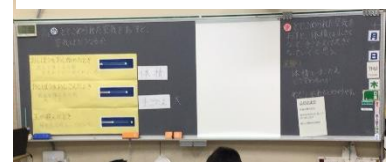
<児童の振り返りから>

- ・ ○○さんの考えから、体積の大きさと手応えがどれくらいか分かった。絵で描いて分かりやすく表したら、空気の状況が分かった。
- ・ 前のふり返りの体積が小さくなっているということや理由を使ってかい決しました。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】



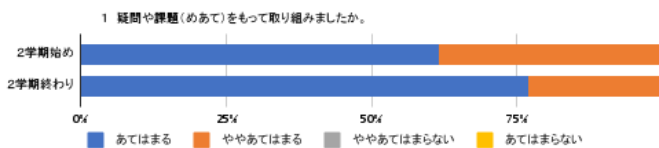
前時の振り返りの掲示物



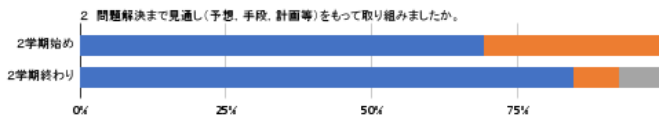
板書は、根拠のある予想をするために思考する際の手がかりとなるよう作成した。スクリーンには、児童のワークシートを映し、全体で共有した。まとめ、振り返りの視点まで書き、本時の学習の流れが分かるようにした。

3 アンケートの結果から

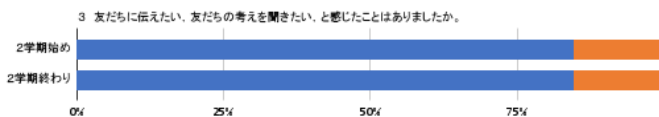
① 関心・意欲、課題意識



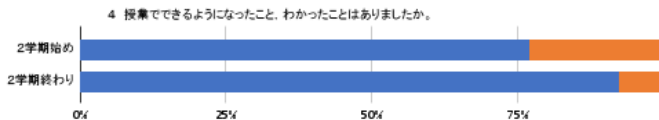
② 見通し



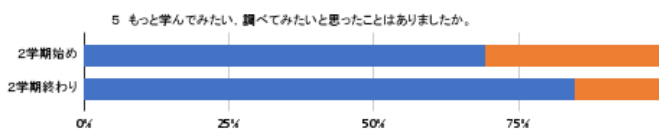
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ (学びの連続性)



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 前時の活動の振り返りと空気鉄砲の筒の中の空気の様子を段階的に提示したことが、児童の予想を練り上げていく過程に合っていた。手がかりが明確

であったので、目には見えない空気の状態をイメージしやすかったようだ。

- 予想が書けなかった児童は、ボールを空気と見立て、袋に入れて圧すことで、筒の中の空気の様子を表す手がかりとしていた。ボールの形状から空気を粒として表していた。

- 風船やボールなど普段から手にしている物がヒントになると考えていた。しかし、本時は空気鉄砲の筒の中の空気の状態を考える場面であったので、空気鉄砲のみでよかった。振り返り後や次時の実験後に、ボールが弾む理由を思考するなど身の回りの物について関連させていくのもよいと思う。

【視点Ⅱ】

- 自分の考えを図や絵、言葉などでワークシートにまとめてから班で交流した。ワークシートを互いに見せて説明したことで、相手の考えをよく理解できていた。友達の考えと比較し、新たな考えに気づく場面が見られた。

- 個人の振り返りは全員が書けていた。振り返りの内容を共有する時間を設ければ、新たに気づいたことや疑問等、様々な考えを出し合え、次時への意欲や課題設定につながるとと思われる。

実際の指導案はこちらへ

第1学年 理科

【複数の混合物を分離する実験を見通しをもって行い、規則性、関係性を見いだして表現する姿】をイメージした授業

岩代中 本多 一雅

1 本單元における夢中になって学ぶ姿

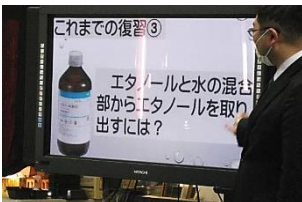
時間	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力等
1	習得活用	・身のまわりにある水はあらゆる場面においてどのような状態で存在しているか考えている。	・水の液体・気体・固体について理解している。（知・技）
2	実験分析解釈	・「ロウの状態変化と体積・質量の変化」の実験を行い、状態変化の際の質量と体積の関係について調べている。	・状態変化の際、体積は変化しても質量は変化しないことに気づいている。（思・判・表）
3	分析解釈	・物質の状態変化を粒子モデルを使って表している。	・粒子の数や粒子間の間隔について適切に表現している。（思・判・表）
4	習得活用	・水の温度変化のグラフをもとに、温度が変わらないときの水の状態について考えている。	・グラフの利点を理解し、沸点・融点について説明している。（知・技）
5	実験分析解釈	・エタノールと水の混合物を加熱し、発生する気体の温度をはかり、出てきた液体の性質を調べている。	・実験を適切に行い、実験結果を性格にグラフに記入している。（知・技）
6	分析解釈振り返り	・集めた液体には何が多くふくまれているか、温度変化のグラフからわかることは何か考え話し合っている。	・実験結果から混合物は一定の沸点をもたず、個々の沸点のちがいを利用して混合物を分離できることを見いだそうとしている。（態）
7本時	実験分析解釈	・エタノール、デンプン、食塩、水が混じり合った混合物からそれぞれの物質を取り出す方法を考え、実験でそれぞれの物質を取り出そうとしている。	・3つの物質が混じり合った混合物を分離する方法を考え、正しい手順で実験を行い分離している。（知・技）

2 本時における研究の視点

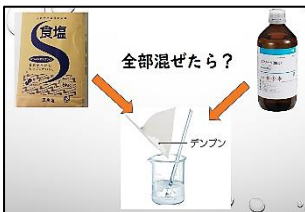
視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

- ① 生徒にとって身近にある（これまでの授業で触れた）物質を取り上げ、課題を設定する。

- 学習指導要領の解説には『理科の見方・考え方』については、『自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること』と整理することができる」とあるため、これまでの授業で触れた物質を取り上げ、生徒の興味・関心を高められるように、知的好奇心をくすぐる課題を設定し、物質の性質を比較しながら分離する方法について考える場を設定した。



ICTを活用した前時までの振り返り



知的好奇心をくすぐる課題の設定

「水、食塩、デンプン、エタノールの混合物から、それぞれの物質を取り出すにはどんな手順で実験を行えばよいか」

- ② 見通しをもって実験ができるよう、これまでの学習内容を振り返りながら、3種類の物質を分離する方法を確認する。

- 課題解決のために、どの順番で実験を行えば3種類の物質を分離することができるか個人→班の順で予想を立てさせ、考えを深めさせる。

課題：水、食塩、デンプン、エタノールの混合物からそれぞれの物質を取り出すにはどのような手順で実験を行えばよいか。

<予想>

① ろ過 をする → ② 蒸留 をする → ③ 蒸発 をする。

↑ワークシートで個々の予想を立てさせる。

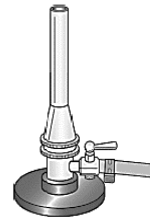


←班で話し合った予想をホワイトボードにまとめるようす

実験技能チェックシート

<ガスバーナー編>

- 2つのねじは開まっているか確かめたか。
- 元栓とコックは開けたか。
- マッチに火をつけてからガス調節ねじを開けたか。
- 空気を調節ねじを調節して炎の色を青色にできたか。



↑実験技能チェックシートを活用し、これまでの実験方法を振り返りながら、自分たちで実験を進められるようにした。

視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

<振り返りの視点>

- ① 本時で分かったこと。
- ② 参考になった考え、どんな場面で活用しているのか。
- ③ 他の人の意見を聞いて共感したこと。
- ④ 授業を通してできるようになったこと。
- ⑤ 疑問に思ったこと。
- ⑥ 次にどんな学習をしたいのか

<生徒の振り返りから>

- ・ いくつかの物質が混じりあった混合物からそれぞれの物質を取り出すには正しい順序で取り出さなければいけないとわかった。また、正しい順序で実験をするにはそれぞれの物質の性質を知る必要があると思った。
- ・ 順番が正しければ混合物を1つずつ取り出せることがわかった。機会があれば他の混合物でもやってみたい。
- ・ 実験の手順を間違えてしまったので、次に観察や実験をするときは先生や友達の話をよく聞いて実験を行いたい。

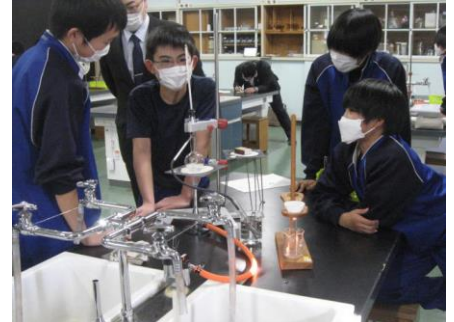
★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】



話し合いながら、実験手順を考
ているようす



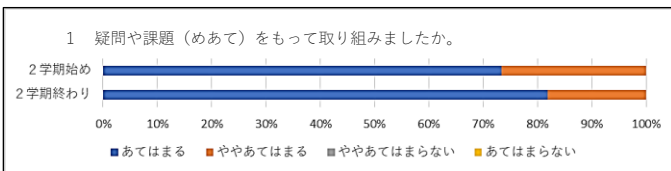
生徒の予想を黒板に掲示



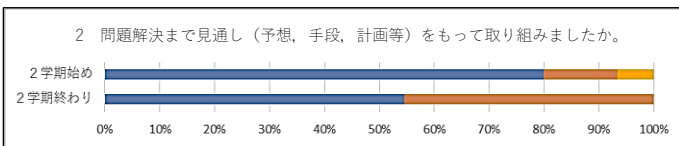
生徒の実験のようす

3 アンケートの結果から

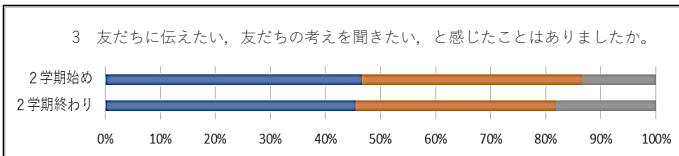
① 関心・意欲，課題意識



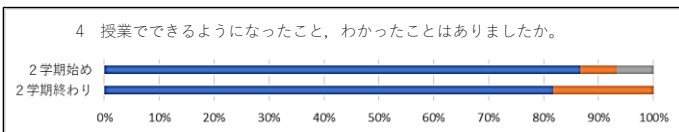
② 見通し



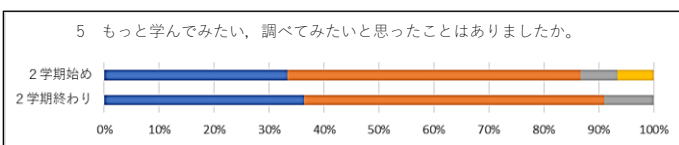
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 知的好奇心を高める課題を設定することで，予想の話し合いが活発になり，生徒の学ぶ意欲が高まったように感じた。また，他の班の意見を聞いて，自分の班の考えと比較することで，班の考えを見直す生徒の姿も見られ，主体的・対話的で深い学びにつながったように感じられた。

- 既習事項を振り返りながら，それぞれの物質の性質を比較し，適した分離方法と順序を見だし，根拠をもって発表する姿が見られた。
- ICTの活用により，前時の振り返りをスムーズに行うことができ，既習事項を可視化して生徒に提示する手段として，ICTの活用は有効だと感じた。
- 予想の段階でまちがった手順を考えた生徒に対してのフォローが十分でなかった。なぜその手順にしたのかを考えさせたり，他の生徒の意見と比較させたりするなどして，自分の考えを直させる場面を設けるのも必要だと感じた。

【視点Ⅱ】

- 振り返りの視点を明確にすることで，全員が本時でわかったことや疑問に思ったことなどを自分の言葉でまとめることができていた。
- 実験結果が思うような結果にならなかったり，手順を間違えてしまったりした生徒からは，失敗の原因や教師や友達の話をよく聞いて観察・実験を行いたいという反省もあり，次時や次の単元へつなげる振り返りができていた。
- 実験の時間が長くなってしまい，十分な振り返りの時間が確保できなかった。1時間で全てをおこなうのではなく，課題把握・予想の時間と実験・考察の時間の2時間構成にすると学びの時間にゆとりができて感じた。

【その他】

- 実験の手順や注意点をまとめた「実験技能チェックシート」を活用することで，生徒が自主的に活動を進めることができ，教師の説明を最小限に抑え，子ども達が主体的に実験を進める手段として有効であると感じた。

実際の指導案はこちらへ

第1学年 音楽

【音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、表現したり鑑賞したりする姿】をイメージした授業
 二本松二中 遊佐久美子

1 本題材における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	習得する	・ 箏の名称・流派による爪と座り方の違い・縦譜の読み方・爪のはめ方・基本的な奏法を身に付ける。	・ 箏の奏法や縦譜の読み方について身に付けている。(知・技)
2	見通す 習得する	・ 縦譜の楽譜を正しく読み、「さくらさくら」の分奏練習をする。	・ 主体的・協働的に分奏練習に取り組んでいる。(態)
3 本時	考える 対話する	・ 音楽を形づくっている要素とパートの役割を考えながら「さくらさくら」のグループ練習をする。	・ 演奏のポイントを自分事として捉え、創意工夫してグループ練習に取り組んでいる。(思・判・表)
4	考える 振り返る	・ 音楽を形づくっている要素とパートの役割を工夫して発表会をする。 ・ 他のグループでは、どのような演奏の工夫をしているか聴き取る。	・ 練習した成果を主体的・協働的に発表している。(態) ・ 演奏のポイントがどのように生かされているか考えながら級友の発表を鑑賞する。(思・判・表)

2 本時における研究の視点

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

- ① 音楽を形づくっている要素(音色・拍・間・テクニク)を意識させながら音楽活動に取り組ませる。

- 音楽を形づくっている4つの要素を意識しながらグループ練習に取り組む。



- 音楽を形づくっている要素と関連づけながら活動がすすんでいるグループの演奏を紹介する。



- ② 合奏での3パートの役割を考えさせ、自分がどのように演奏すれば豊かな音楽表現になるか考えながら取り組ませる。

- パートごとの演奏上の役割を考え、音楽表現を工夫する。



視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

自分の言葉で振り返りをさせる。

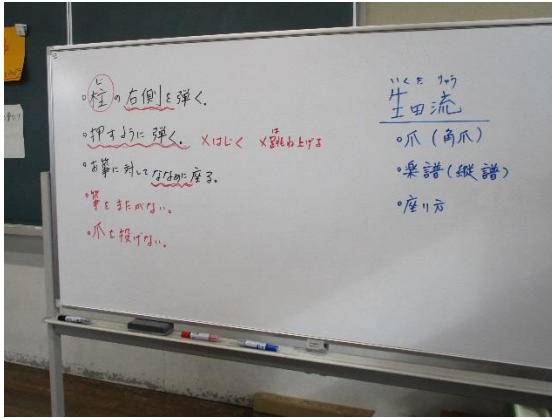
<振り返りの視点>

- ① 本時で意識して学習したこと
- ② できるようになったこと
- ③ 次時でがんばりたいこと

<生徒の振り返りから>

- ・ 奏法に気をつけると音がよく響いていて、合奏した時に「きれいだなあ。」と思いました。
- ・ 次の発表会では、自分のパートの役割をしっかりと果たして合奏を成功させたいです。
- ・ やればやっただけ上手になっていくのが、嬉しいです。
- ・ 曲が華やかな感じに聞こえるように、2のパートをがんばりたいです。

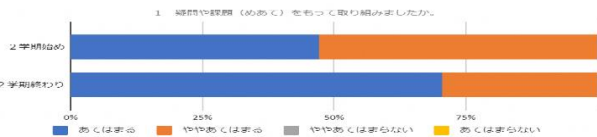
★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】



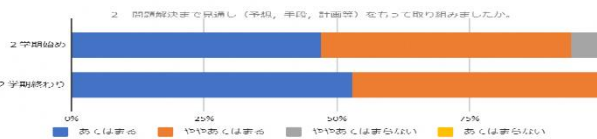
【和楽器を学ぶ上での心構えを常時掲示】

3 アンケートの結果から

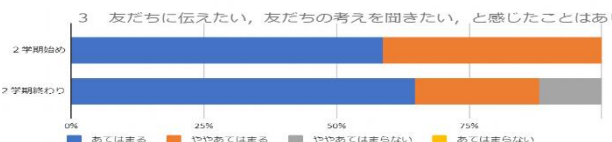
① 関心・意欲、課題意識



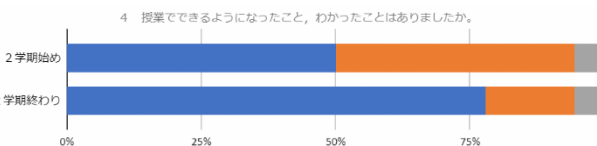
② 見通し



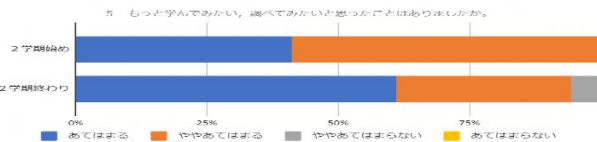
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

○ 「さくらさくら」の演奏を成功させるためのポイントを提示したことで、音楽を形づくっている要素を意識しながら学習に取り組むことができた。

○ 合奏でのパートの役割を考えさせ、音楽表現を工夫させたことにより、表現の幅が広がった。また、自分の役割を果たそうと課題を自分事として捉え、課題解決に向かう姿が見られた。

● 生徒が働かせた「見方・考え方」を見逃すことなく、注意深く見取り、称賛したり広めたりして「深い学び」へと導けるよう教師のコーディネート力を高めていく必要がある。

【視点Ⅱ】

○ 練習すればするほど演奏ができるようになり、演奏ができるようになることが「嬉しい。」「授業が楽しい。」と振り返りで記述する生徒が多く見られた。

○ 振り返りの記述をみると、奏法に気をつければ音色が変わることを実感した生徒が多かった。箏の音色が美しい・きれいだと感じた生徒が多く、伝統的な音の魅力を味わいながら学習に取り組むことができた。

● 次時が最終発表会であることを告げると不安の声が聞かれた。納得いく演奏に仕上げたいとする意欲の表れでもある。題材構成の再考や単位時間におけるタイムマネジメントを工夫する必要がある。

【その他】

○ 後日タブレットを活用し、グループ内で互いに動画撮影し、奏法や座り方、弾く位置などが正しくできているかの確認の時間を設定した。客観的に自分の姿を確認できたことで、課題を把握することができ、課題解決に向けて意欲が高まった。今後の授業づくりにおいても積極的に活用していきたいと考える。 実際の指導案はこちらへ

第6学年 体育科

【今自分ができる技や挑戦したい技の組み合わせを見通しをもって行い、友達と協力して挑戦する姿】をイメージした授業

東和小 渡邊 康貴

1 本単元における夢中になって学ぶ姿

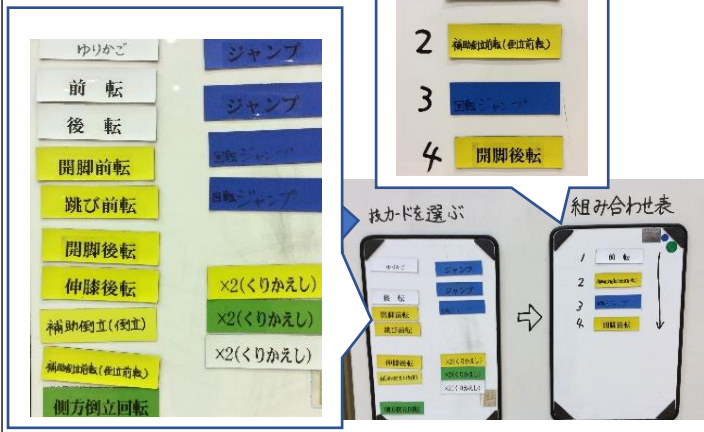
時間	1	2	3	4	5 (本時)	6
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの確認 運動身体作りプログラムマット運動バージョンの紹介	場の準備→準備運動(運動身体作りプログラム マット運動バージョン)				
45		・今できる技を確かめる。 ・技のポイントを知る。 ・グループ編成をする。	・前転系・後転系の技に挑戦する。 ・自分の選んだ技に挑戦する。 ・グループで取り組む。	・巧技系の技に挑戦する。 ・補助の仕方を確認する。 ・グループで取り組む。	・自己の選んだ技に取り組む。 ・グループで取り組む。 ・技の組み合わせを考える。	・グループで取り組む。 ・考えた技の組み合わせの練習をする。 ・発表会をする。
		振り返り→整理運動→片付け				
知	運動の課題や約束、場や用具の使い方、場の安全な確保など、マット運動の行い方を理解している。【観察】	技の行い方やポイント、練習の仕方を理解している。	技の行い方やポイント、練習の仕方を理解している。		開脚前転・後転・側転などの基本的な技や自己の能力に適した回転系や巧技系の発展技に取り組む。技を身につけたり、選んだ技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。【観察】	
思	自分の能力に適した課題を見付けたり、学習資料を活用して課題の解決に向けた活動を選んでいる。【観察・学習カード】		観察し合って、見付けた自己のつづや仲間への考えを他者に伝えている。【観察・学習カード】	技のできばえを振り返り、課題を修正したり、新たな課題を見付けたりしている。		
態	準備や片付けなど分担された役割を果たそうとしている。【観察】		場や器械・器具の安全に気を配ろうとしている。【観察】	学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合おうとしている。【観察】	仲間への考えや取り組みを認めようとしている。【観察・学習カード】	マット運動に積極的に取り組もうとしている。【観察・学習カード】

2 本時における研究の視点

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

① 技の組み合わせを見通しをもって行えるよう、教具の工夫をする。

○ グループごとに技の組み合わせを考える際に、技の名前が入ったカードをボードに貼ることで、具体的にそれぞれの動きをイメージすることができるようにする。



技と技の間は、どうすればスムーズにつながるかな。

組み合わせの中に倒立前転を入れてみたいな。



② タブレットを使用して自分の動きを確認したり、お手本を見たりすることで技の技能の向上を図ることができるようにする。



倒立から前転に行くところが難しいな。

技から次の技へスムーズに流れているかな。



頭→首→肩とゆっくりマットにつけていくよ。

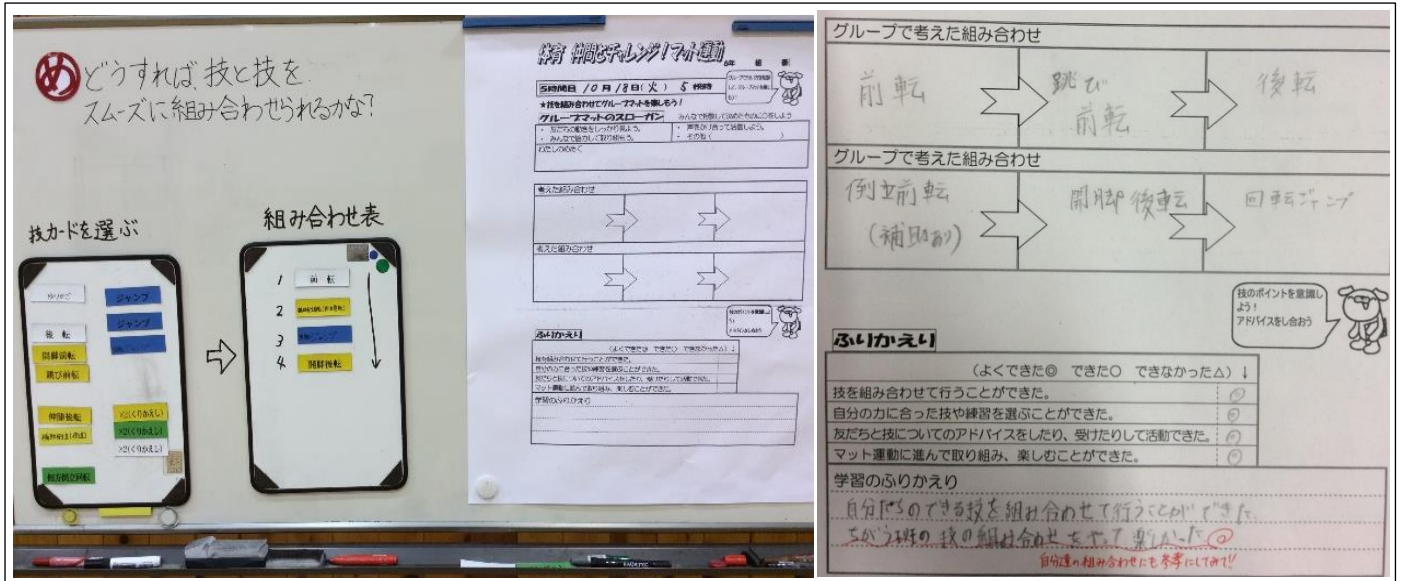
視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

活動の中でよくできた点などを学習カードに記入し、次時への意欲を高めるようにする。

<児童の振り返りから>

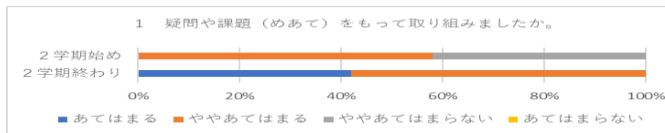
- 自分の力に合った技を組み合わせると良いと思った。
- ちがう班の技の組み合わせをやって楽しかった。
- 倒立前転をもっとうまくできるようにいっぱい練習したい。
- スムーズにできないところがあったので、スムーズにできるように練習する。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

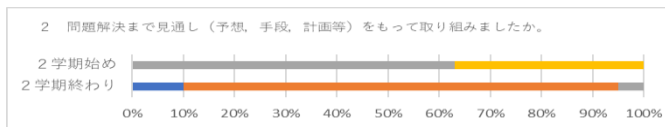


3 アンケートの結果から

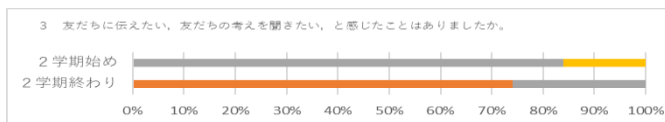
① 関心・意欲, 課題意識



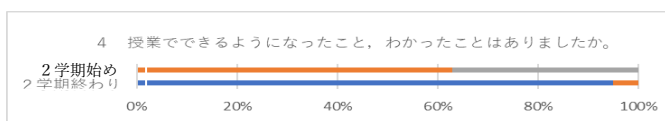
② 見通し



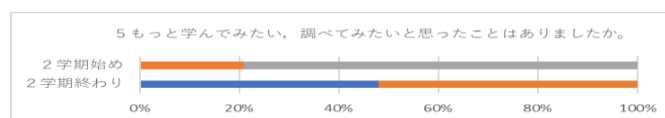
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ (学びの連続性)



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 技の名前が書いてあるマグネットカードをホワイトボードに並べる活動を取り入れたことで、子どもたちは、技のイメージだけでなく、技と技の間の動きもイメージして取り組むことができた。

- 「スムーズ」というキーワードは子どもたちから出てきたが、「スムーズ」について問い返しを行い、

技の組み合わせにおけるスムーズさについて共有させたい。

- 技の難易度に合わせてカードの色を変えたり、技ごとに点数をつけたりすることで、より得点の高い組み合わせを考えて取り組めるようになると考える。

【視点Ⅱ】

- 学習カードを活用したことで、グループでの取り組みや自分の取り組みに対して課題を明確にすることができた。アンケートの結果④や⑤からも子どもたちが振り返り、新たな学びへ意欲をもってきていることが見てとれた。

- 振り返りの手立てとして、学習カードに記入したことを撮影し、クラスルームに貼り付けることで、共有化が図れる。また自分の反省をタブレットで自撮りして共有させると時間短縮にもつながると考える。

【その他】

- タブレットを活用したことは、自分たちの技の出来栄を確認し、技と技の間の動きや技の完成を高めるのに大いに役立った。

- 補強の場作りとして、グループごとの練習の際に、傾斜のあるマットや壁倒立の場などを準備して、子どもたちが選択して技の練習に取り組めるようにしたい。

実際の指導案はこちらへ

第2学年 保健体育

【ペアの運動メニューの作成から、運動の必要性を再確認し、自分の健康・体力課題の解決につなげる姿】をイメージした授業

二本松一中 草野 洋一

1 本單元における夢中になって学ぶ姿

時数	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1~4	見通す	・体づくり運動、体ほぐし運動の意義と行い方を運動の実践から学んでいる。	○ 体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解している。動きを継続する能力を高める運動、体の柔らかさを高める運動、巧みな動き、力強い動きを高める運動を学んでいる。(知・技)
5	対話する	・自己の課題や適切な運動強度を探している。	○ 自己の体づくり運動の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。自己に適した運動強度を心拍数を手がかりに考えることができる。(思・判・表)
6	対話する(本時)	・体づくり運動をペアで楽しみ、今後も運動を継続できるメニューを考えている。	○ 体づくり運動に積極的に取り組んでいる。(態) ○ 運動を継続するための工夫をペアに伝えている。(思・判・表)
7、8	振り返る	・生活習慣に取り入れる体づくり運動を考えている。	○ 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができる。(思・判・表)

2 本時における研究の視点

視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

① 「健康管理を行う社長の立場」という場面設定により、運動の必要性をより、深く考えさせる工夫をする。

○ **社長として、社員(ペア)の健康を管理、維持するための運動メニューを考える。また、社長自身も健康になるメニューを考えさせる。**



○ **社長として、社員にどんな声かけや支援を行うのか考えさせる。**



T: ペアが続けられる支援ってどんな支援?
C: 一人だと心細いだろうから一緒に筋トレするよ。
C: じゃ、回数も数えるね。

② **タブレットを活用し、ペア活動で考えた運動メニューの情報を教員が集約する。集約した情報を教師が助言又は評価して返すことで、考えが深められるように工夫する。**

○ **入力された運動メニューを見て「持続可能な取り組みなのか」という視点で考えさせる。**



T: ペアが続けられる運動強度ってどれくらいかな?
C: このくらいでどう?
C: 心拍数は120くらいかな。

視点II【学びの連続性につながる振り返り】

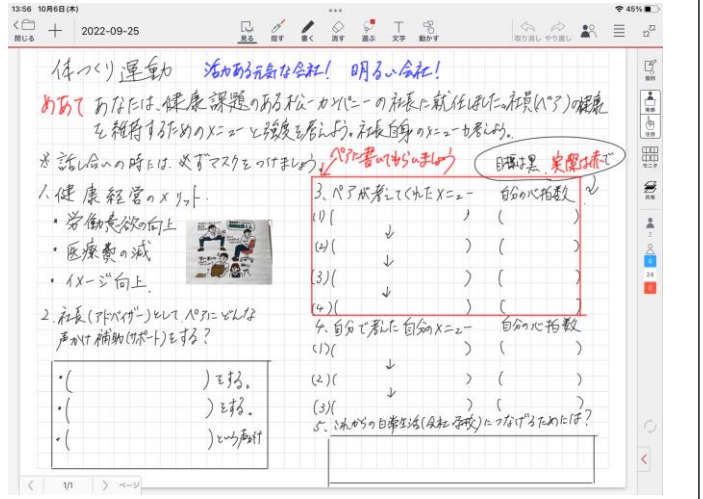
<振り返りの視点>

- ① 運動メニュー作成で意識したことを確認する。
- ② 日常的に運動を継続するためのポイントを確認する。

<生徒の振り返りから>

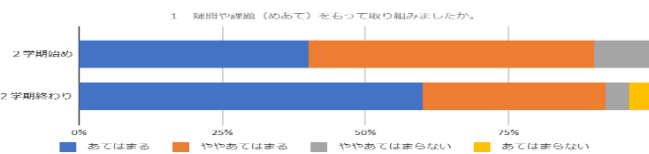
- ・ あまり運動をキツくしすぎず、心拍数が160くらいの強度で毎日運動したい。
- ・ 日頃から少しでも運動して筋肉などをつけていくことが大切だと思った。
- ・ 自分に合った強度のトレーニングを意識して頑張りたい。
- ・ 無理なく続けられる運動強度を見つけることができた。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

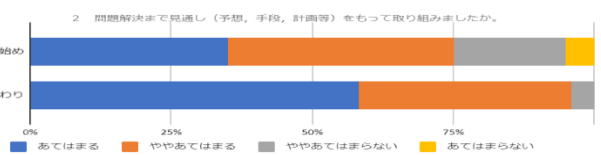


3 アンケートの結果から

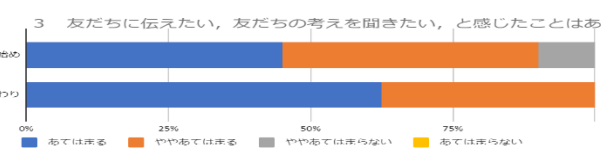
① 関心・意欲、課題意識



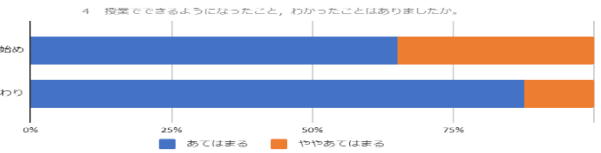
② 見通し



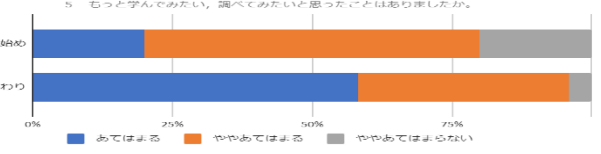
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

○ ペアの運動を支え、メニューを考える活動を実施したことで、思いやりのある声かけや支援のあり方

を考えるきっかけとなった。ペアストレッチでは、「社長役に背中を押してもらい、ペアの支援のありがたさを感じた」とヒアリング調査で述べるなど、運動をする側と運動を支える側の両者にとって意義のある活動であったと考える。

● 教師が、具体的なペアの関わり方をタブレットを見て確認した。関わり方を意図的に指名して発表させたが「みんなはどう思う？」などの問い返しができなかった。生徒同士で協働的な学びをさせるためにも教師の問い返しの方法に改善が必要であった。

【視点Ⅱ】

○ 「今後の日常生活に筋トレを取り入れたい」という感想を述べるなど、生徒の体づくり運動に対する考え方が向上したと考える。また、運動を苦手とする女子生徒も「登下校は積極的に歩いている」と述べるなど、授業後も日常生活から無理のない運動を行い、継続して運動を行なっている姿が伺える。

● 運動を得意とする女子生徒は「部活動で体力の向上を目指している」と話をする一方で「心拍数を計測する時間がない」と述べるなど、体力を向上させる場面で、自分に適した運動強度を計測するなどの実践にまでには至っていなかった。

【その他】

・ 学びの活性化のためにも、タブレットを有効に活用することができた。生徒の考えを教師が収集し、分析して助言することで、より質の高い学び合いを行うことができたと思う。

実際の指導案はこちらへ

第3学年 体育科（保健）

【体の清潔について課題を見つけ、よりよい解決に向けて考える姿】をイメージした授業

石井小 阿部 理佳

1 本單元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習内容(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	見通す	・健康な状態について考えている。	・健康な状態は、主体の要因と周囲の環境の要因が関わっていることを理解している。(知・技) ・健康の大切さに気付き、毎日の生活と健康についての学習に進んで取り組もうとしている。(態)
2	考える	・健康に過ごすには、体の清潔を保つ大切さを確認し、体を清潔に保つために自分でできることを考えている。	・健康の保持増進には、体の清潔を保つことの重要性を理解している。(知・技) ・体を清潔に保つために自分でできることを考えている。(思・判・表)
3	考える	・健康に過ごすには、運動、食事、休養及び睡眠の調和が大切であることを確認し、自分の生活を振り返り、課題を見付け、解決策を考えている。	・健康の保持増進には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活が必要であることを理解している。(知・技) ・自分の生活を振り返りながら、よりよい生活の仕方について考えている。(思・判・表)
4	考える	・健康に過ごすには、明るさの調節、換気などの生活環境を整える必要があることを理解している。	・健康の保持増進には、明るさの調節、換気などの生活環境を整える必要があることを理解している。(知・技)

2 本時における研究の視点

視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

手洗い実験で手の汚れを可視化することで、清潔に保つ大切さの意識を高める。

○ ブラックライトによって青白く光ったところを記録させ、水だけでは汚れがよく落ちないことに気付くようにする。

<手洗い実験の感想を発表する。>

- ・ ただ、水で洗っただけではだめなことに気付きました。石けんだと水で洗った感じと比べて、菌がよくとれていたことに気付きました。
- ・ 自分では手洗いバッチリと思ったけど、まだ見えない菌があり、もうちょっとしっかり洗いたいと思いました。
- ・ アルコールをしていたからきれいだと思っていた。こんなに汚いと思わなかった。

<手や体を洗う理由を考える。>

T: 手や体はどうして洗うのか考えてみましょう。

C: バイ菌や汚いものをなくすために洗う。

C: バイ菌が体に住み着いたりすると大変だから。

C: 汚い手で食べると病気になったりするから。

視点II【学びの連続性につながる振り返り】

自分の生活と関連付ける設問を設定したワークシートの工夫

<振り返りの視点>

- ① 清潔を保つために自分でできること
- ② 分かったこと

① 清潔を保つために自分でできること

<ワークシートの設問を学校と家庭でできるところに分けた。>

【学校でできること】

- ・ 手をしっかり洗っていたので、これからもしっかり石けんで手を洗う。
- ・ 手洗いうがいをし、手を洗うときはいつもより長く洗う。

【家庭でできること】

- ・ 髪の毛をしっかりと洗っていたけれど、菌がついているからもっとしっかり洗う。
- ・ 服を替える。お風呂に入る。
- ・ おうちでもしっかりと石けんで手を洗いたいです。うがいもしっかりやっていきたいです。

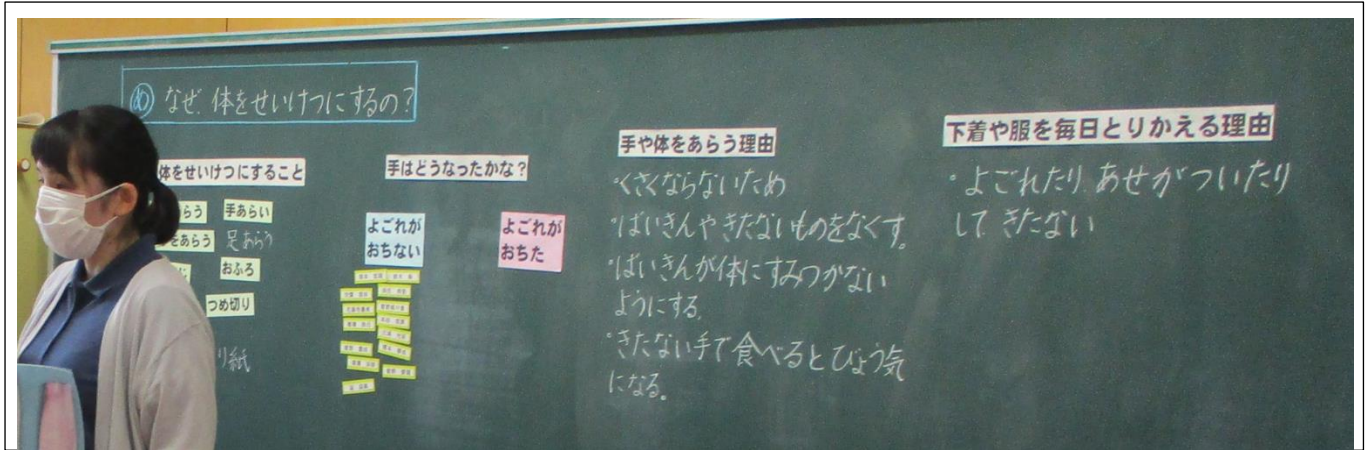
② 分かったこと

<児童の振り返りから>

- ・ もっといっぱい手を洗いたいです。いつもOKだと思っていたら、まだまだ汚れがあると分かりました。
- ・ なぜ、体とかを清潔にするのかなと不思議に思っていて、当たり前だと思っていたけど、その意味は病気にならないためと知ったので嬉しかったです。
- ・ 体を清潔にするのは、病気にならないためだと分かりました。これから手や体をきれいに洗いたいです。

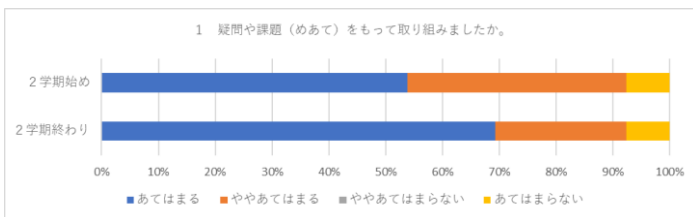


★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

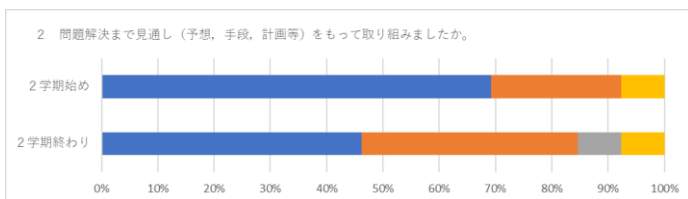


3 アンケートの結果から

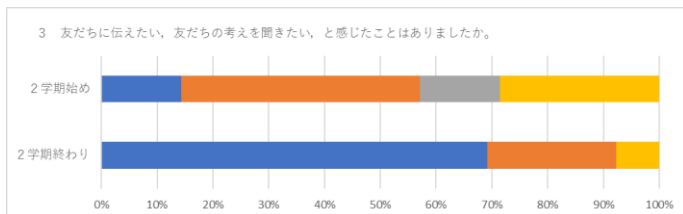
① 関心・意欲，課題意識



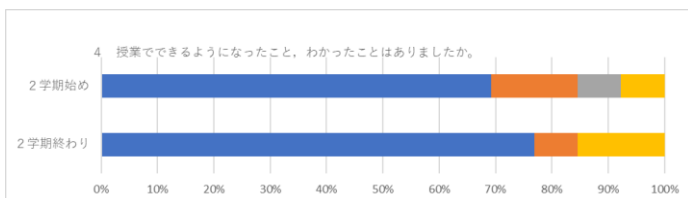
② 見通し



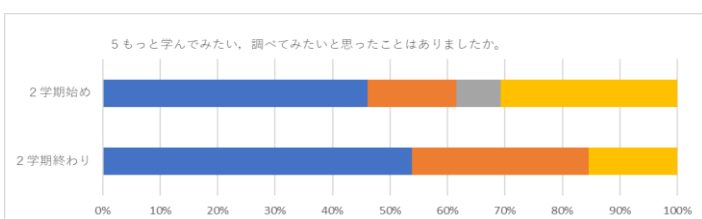
③ 話し合い・学び合い（協働の学び）



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

○ 手洗いの実験では，水だけでは汚れが落ちていないことに驚く姿が見られた。自らの手の汚れを可視化したことで，目に見えない汚れを意識することができ，本時の学習を自分事として捉えることができた。

● 手の清潔から体の清潔に考えを広げることができなかった。児童は手の汚れが体に入ることは理解していたので，「手だけ洗っていれば清潔だね」など体の清潔について目を向けさせる問い返しがあればよかった。

● アンケート結果②から，実験の結果を予想した理由を考えるなど見通しをもたせるための手立てが必要であった。

【視点Ⅱ】

○ 清潔を保つために自分でできることには，これからも石けんを使って手を洗う，服を替える，体をきれいにするなどの記述があり，健康な生活を送るための実践意欲を高めることができた。

● ワークシートの設問を学校と家庭でできることに分けたが，家庭でできることを具体的に記述している児童が少なかった。一日の生活のながれをイメージしながら，起床時，登校後，運動をした後，食事前，帰宅後，入浴時など具体的な生活場면을提示する必要がある。

【その他】

・ 授業後に手洗いチェックに訪れた児童はいたが，実践を継続できる児童は少ない。実践の振り返りを自ら記録させることで継続できるようにしたい。

実際の指導案はこちらへ

第3学年 外国語活動

【相手意識や目的意識をもち、学習した表現を用いて、コミュニケーションを図ろうとする姿】をイメージした授業

二本松南小学校 菅野 香代子

1 本単元における夢中になって学ぶ姿

時	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力等
1	音に出会う	単元のゴールを知ったり、アルファベットの大文字の読み方を知っている。	
2		身のまわりにあるアルファベットの大文字探しをしたり、ゲームをしたりしながら読み、読み方と文字が一致するように慣れ親しんでいる。	身のまわりには、活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の大文字とその読み方に慣れ親しんでいる。（知・技）
3	コミュニケーションを楽しむ	アルファベットの大きさを自由に仲間分けし、発表している。	活字体の大文字を識別し、活字体の大文字とその読み方に慣れ親しんでいる。（知・技）
4 本時		「6年生へのありがとうカード」を作るために、お店屋さん形式でのやり取りをし、6年生の名前の頭文字（イニシャル）を集めている。	6年生に喜んでもらえる「ありがとうカード」を作るために、友達と、自分や6年生の姓名の頭文字を伝え合うやり取りをし、そのアルファベットカードを集めている。（思・判・表）（主）

2 本時における研究の視点

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

- ① 単元のゴールを「6年生へのありがとうカードを作ろう」とし、6年生が喜ぶカードを作るために、お店屋さん形式でのやり取りをして名前の頭文字（イニシャル）を集めるといふ、必要感のある場面を設定する。

- 教師の作った「ありがとうカード」を見て「自分も作りたい」という意欲をもち、そのために必要な、自分の名前の頭文字を伝える表現を知る。



- アルファベットショップのロールプレイゲームをする。

S and K cards , please.

Here you are.



- ② 児童のやり取りをモデルとして紹介し、どんなところがよかったかを考え、それを自分の表現に取り入れられるようにする。

- 相手に伝わりやすくするためには、どうすればいいか考える。



視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

<振り返りの視点>

- ① 何が分かったか
- ② 次はどうなりたいのか
- ③ どうしたらできるようになったのか

<児童の振り返りから>

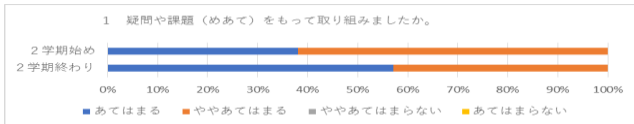
- 6年生のイニシャルを調べることができました。前と比べて外国語がもっと楽しくなりました。
- 友達がサポートしてくれたので、お店屋さんでの言い方ができるようになりました。
- リアクションを大切にしたりとやりとりをすると友達に伝わりやすくなることが分かりました。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

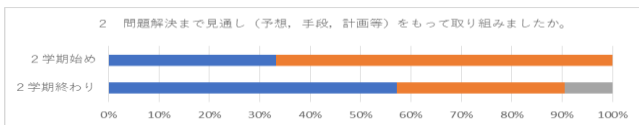


3 アンケートの結果から

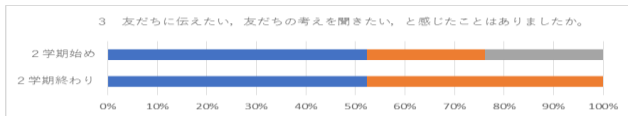
① 関心・意欲，課題意識



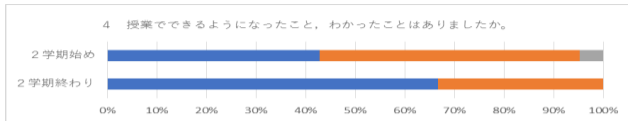
② 見通し



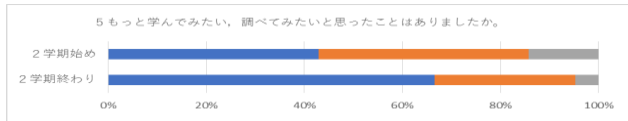
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 単元のゴールを示し，児童が必然性のある活動場面を設定したことで，目的意識をもち，学習に意欲的に取り組むことができた。
- 教師の作った「ありがとうカード」の実物を見ることで，児童は本時への学習意欲を高め，「伝えたい」

「アルファベットカードを集めたい」という目的をもって活動することができた。

- すべての場面を想定しやり取りの仕方を確認するのではなく，児童が困る，思考する場を設定し，何と云えばいいのかわからない，どう伝えればいいかを話し合い，さらに上達したいという思いをもつことができるような活動の場をさらに工夫していく必要がある。

【視点Ⅱ】

- 前時までの振り返りカードから本時の学習内容に関わる児童の思いを取り上げ，本時のめあてにつながるすることができた。
- 振り返りの視点を示し，書くことを積み重ねてきたことで，1学期は「楽しい」など，情意面の振り返りが多かったが，2学期は視点に合わせて「～ができるようになったのは○○だから」などの認知面の振り返りができるようになった。

- この単元でどんな力が身につくのかを，児童に分かるような振り返りカードを作成し，見通しをもって学習できるように工夫していく必要がある。

【その他】

- 絵と文字を組み合わせたカードを準備し，音と出合わせる工夫をした。音と意味内容が視覚的に分かるようにしたことが，やり取りの手助けとなった。
- 自分たちのやり取りを録画し，自分たちでやり取りを修正できるように，ICTを活用していく。

実際の指導案はこちらへ

第3学年 英語

【相手の立場に立って、具体的な提案をしながら申し出たり応じたりする姿】をイメージした授業

二本松二中 武田 由香理

1 本単元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	考える	・ラジオの災害情報を聞いている。	・災害情報を表す文章を聞いて、指示されている概要や詳細な情報を聞き取ったり、捉えたりしている。(思・判・表)(主)
2	見通す	・防災への意識を高めるために、外国人市民意識調査とその結果について書かれた文章の概要を捉えたり伝えたりしている。	・外国人市民意識調査とその結果について書かれた文章の概要を捉えたり伝えたりしている。(思・判・表)(主)
3	習得する	・間接疑問文の形・意味・用法を理解している。	・「間接疑問文の形・意味・用法」を理解している。(知・技)
4	対話する	・防災の意識を高めるために、どこにあるか、どのように行動するかなどを教えてほしいと依頼している。	・防災の意識を高めるために、どこにあるか、どのように行動するかなどを教えてほしいと依頼している。(思・判・表)(主)
5	習得する	・SVOO(what節)の文の形・意味・用法を理解している。	・世界の偉人について、情報をたずねたり伝え合ったりしている。(知・技)
6	考える	・防災・安全への関心を高めるために、日本で地震にあった外国人の体験談について書かれた文章の要点を捉えたり、どのような人かを説明したりしている。	・防災・安全への関心を高めるために、日本で地震にあった外国人の体験談について書かれた文章の要点を捉えたりしている。(思・判・表)(主)
7	習得する	・現在分詞の形・意味・用法を理解している。	・「現在分詞の形・意味・用法」を理解している。(知・技)
8	考える	・地域の一員として防災に取り組む意識を持つために、外国人支援の取り組みについて書かれた文章の要点を捉えたり、説明したりしている。	・地域の一員として防災に取り組む意識を持つために、外国人支援の取り組みについて書かれた文章の要点を捉えたりしている。(思・判・表)(主)
9	習得する	・過去分詞の形・意味・用法を理解している。	・「過去分詞の形・意味・用法」を理解している。(知・技)
10	考える	・防災への意識を高めるために、標識が何を意味しているかについて、話したり書いたりしている。	・防災への意識を高めるために、標識が何を意味しているかについて、話したり書いたりしている。(思・判・表)(主)
11	本時	・困っている相手に対して、状況に合った手助けができるように、相手の立場に立った具体的な提案を申し出たり、相手からの質問に答えたりしている。	・困っている相手に対して、相手の立場に立った、具体的な提案をしたり、質問に答えたりしている。(思・判・表)(主)
12	考える	・選挙と投票について考えを深めるために、投票率に関する資料から読み取った情報を伝え合ったり、身近な話題について公約を考えて発表したりしている。	・選挙と投票について考えを深めるために、投票率に関する資料から読み取った情報を伝え合ったり、身近な話題について公約を考えて発表したりしている。(思・判・表)(主)
13	考える	・ニュースなどのテレビ番組の音声聞いて、概要や要点を聞き取っている。	・自分の言葉で説明できるように、ニュースや国の紹介のテレビ番組を聞いて、概要や要点を捉えようとしている。(思・判・表)(主)

2 本時における研究の視点

視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

① 既習事項なども使いながら、相手の立場に立った具体的な提案を考える。

○ 既習事項を用いた本文を、役割を交代しながら繰り返し練習する。



② 生徒にとって身近な場面設定を行い、目的や場面、状況によって、適切な表現を選択・使用できるようにする。

○ 身近な3つの場面設定を行い、目的や場面、状況によって、どのような申し出ができるかを考え、ペアでやりとりをする。



・タクシー乗り場を探している
・券売機の使い方がわからない
・公園で迷子になっている

○ 友達の発表を聞いて、どのようにすればもっと伝わりやすい申し出になるか、ペアで修正しながら再度取り組む。

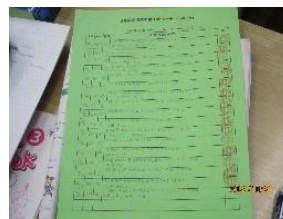


視点II【学びの連続性につながる振り返り】

<振り返りの視点>

- ①何が分かったのか
- ②どんな場面で活用できるのか
- ③新たに知ったこと
- ④次にどんな学習をしたいのか

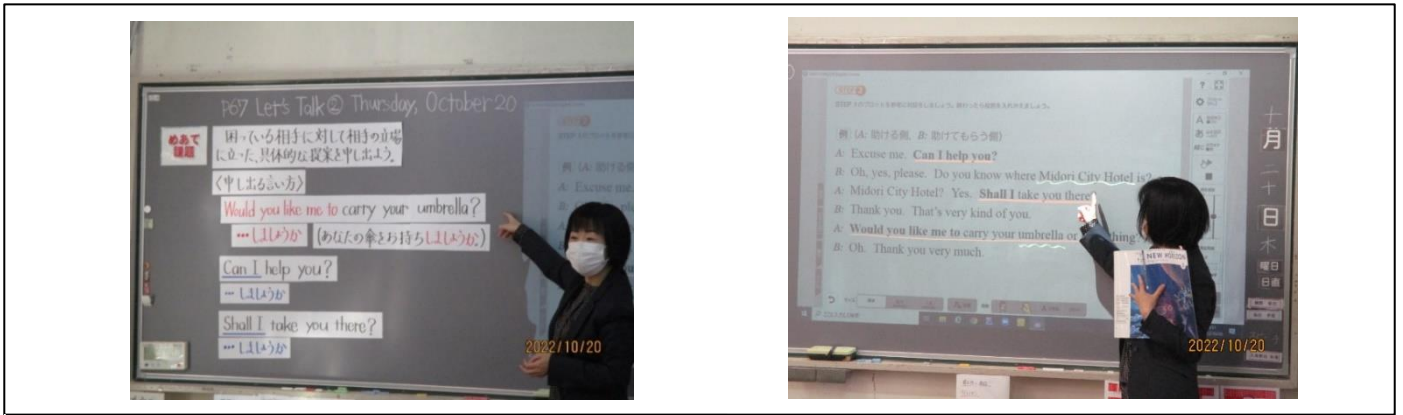
<生徒の振り返りから>



「人を助けるときに使う英語がわかったので、実際にやってみみたいです。」

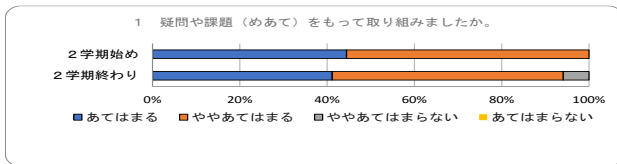
「友達の表現を参考にしながらやってみると、前よりも伝わりやすくなった。」

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

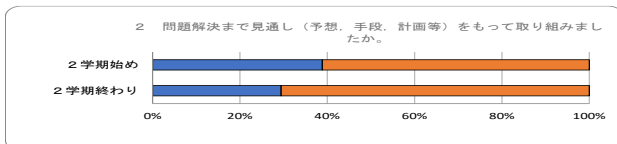


3 アンケートの結果から

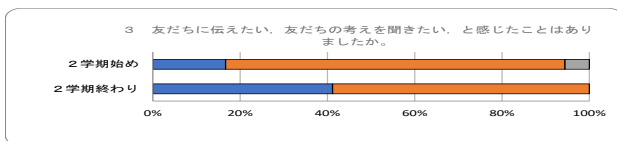
① 関心・意欲，課題意識



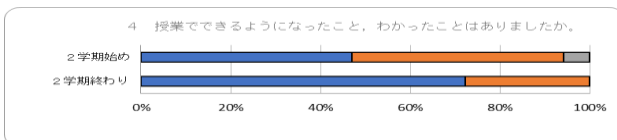
② 見通し



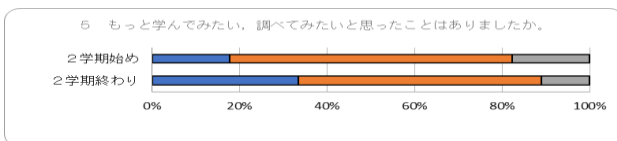
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 既習事項の中に提案や申し出の言い方があることを確認したことで、すぐに活用ができたと思われる。
- 生徒にとって身近な場面設定をしたことで、目的や場面、状況によって、どのような表現を用いて申し出ができるか考えて、やり取りができていることも多いように見られた。
- ペアの発表では、簡単なものから難しいものへと順番に指名したことで、生徒は内容を理解しやすくなったように思われる。

- 級友の発表を聞いたことで、どうすれば相手を意識した申し出になるか、伝わりやすさを意識して、再度取り組み改善している様子が見られた。
- 既習事項の確認に時間がかかりすぎてしまい、STEP3の活動をする時間を十分に取ることができなかった。既習事項の確認や本文の意味などポイントを絞って授業を行い、時間をかけて行いたい活動ができるようにしていく必要がある。

【視点Ⅱ】

- 振り返りの視点を提示したことで、その視点に従って振り返りをするようになってきた。
- 友達の振り返りを聞いたことで、自分が書いた振り返りと比較することができ、次はどんなことをしてみたいかを考える機会となったように思われる。
- 振り返りをする時間を十分に取ることができなかった。授業の中に振り返りをする時間を確保できるように、学習内容を精選していく必要がある。

【その他】

- なかなか挙手することができない生徒がいるので、same opinion, same ideaなどの教師の呼びかけに反応することで、自分の活動が認められたと実感できたと考えられる。
- 自由に相手を見つけて、活動をさせてもよかった。いつもと違うペアでやり取りを行うことで、新鮮さがあり、協力してやることでさらに楽しく活動ができたように思う。

実際の指導案はこちらへ

第1学年 道徳

【役割演技などを行い、登場人物の心情について考えることを通して、困っている人を思いやることの大切さに気づき、相手のことを考えて、進んで助けることについて思いを深める姿】をイメージした授業

二本松北小 野地 由美子

1 本單元における夢中になって学ぶ姿

時間	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力等
1	考える 対話する	学級活動「学級のめあてを話し合おう」 どんな学級にしたいか、自分の意見を 発表したり、友達の意見を一生懸命聞い たりしている。	・よりよい学級になるために、 どうすればよいか考えようとし ている。
2 本 時	考える 対話する	道徳「くりのみ」 登場人物の役割演技を通して、困っ ている友達に対する行動を多面的・多角 的に考え、互いに助け合うことの大切さ について考えている。	・身近な友達と仲よく活動し、 困っているときには互いに助け 合うことについて思いを深める ことができる。
3	考える 対話する	道徳「二わの小鸟」 動作化を通して、相手の気持ちに寄り 添って考えながら、友達の気持ちを考え て、行動することの大切さについて考え ている。	・相手の気持ちを考えて、行動 することの大切さに気づくこと ができる。
4	対話する 習得する	生活「いっしょにあそぼう」 身近な自然物などを使い、自分たちで 工夫して作ったおもちゃを用いて、友達 と一緒に遊び方を工夫し、みんなで遊び を楽しんでいる。	・相互の思いを大切にしながら、 友達と仲よく遊ぶようとして いる。
5 ～ 7	対話する 習得する	学級活動「お楽しみ会をしよう」 友情関係を深めるために、相互の思い を大切にしながら計画を立てたり、準備 をしたりしてお楽しみ会に向けて協力し ながら活動している。	・学級全員が楽しむことができ る内容を考えて、友達と協力して 活動している。

2 本時における研究の視点

**視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら
学びを自分事として捉える指導の工夫】**

① 自分事として捉えるために、友達との関わりにつ
いて今までの自分を振り返る場を設定する。

○ 主題に対する関心を高め、学習に臨むことができ
るよう、事前に行ったアンケートの結果を提示する。



○ 助け合うことのよさについて、経験を基に話
ができるように、日常のエピソード写真などを
提示して、子どもたち同士が助け合っていた場
面を想起させる。



② 役割演技を行い、きつねの心情に自分を重ね
て考えることで感じたことを話し合わせる。

○ 役割演技では、きつね役の児童の多様な意見
を引き出せるように、教師がうさぎ役となり、
児童への問い返しなどを行う。



視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

<振り返りの視点>

友達と一緒に活動して楽しかったことや、
友達と助け合ってよかったことなど自分の経
験を振り返りながら、これからの生活の中で
友達が困っていたときにはどんなことができ
るかについて自分の言葉でまとめさせる。

<児童の振り返りから>

- ・ たすけてあげると、あ
いてもじぶんのころも
あたたまる。
- ・ はなしをきいて、それ
からやさしくたすける。
- ・ あいてのころをか
んがえてあげる。

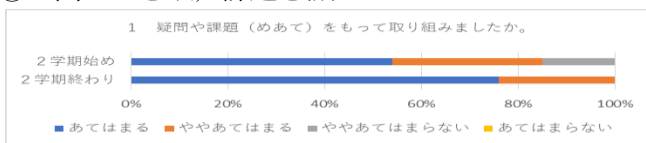


★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

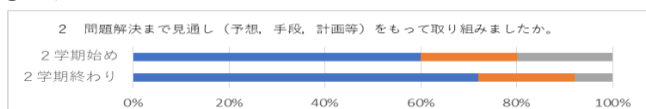


3 アンケートの結果から

① 関心・意欲，課題意識



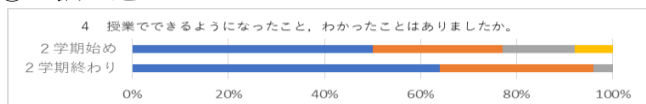
② 見通し



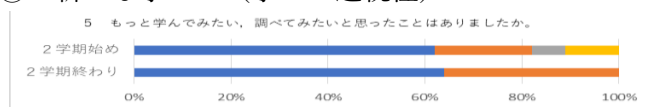
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 導入では、「友達が困っていたとき，どうしますか」というアンケートから「助ける」や「話を聞く」という児童の答えを提示するとともに、「どんな心で関わってあげるとよいか」と問いかけ，本時で考えていくことについて焦点化を図ることができた。
- 今回のアンケートは簡単な内容だったため，その場で子どもたちに問いかけて問題意識をもたせてもよかった。

- 日常の写真やそのときの具体的なエピソードを紹介することで，これまでの生活を想起しながら，助け合うことのよさについて，自分との関わりで捉えることができた。
- 役割演技では，発達段階を考慮し，うさぎ役を教師が行い，演技した児童や周りの児童へ問い返しを行ったことで，子どもたちの多様な考えを引き出すことができた。
- 児童の感じた「うれしい」や「かなしい」といった気持ちに対して，教師がなぜ「うれしい」のか，「かなしい」のかを問い返すことで，自分の心情を豊かに表現させていきたい。

【視点Ⅱ】

- 教材で考えたことから，自己を見つめさせるために「きつねさんのように，友達に助けてもらったことはありますか。」「うさぎさんのように，友達を助けてあげたことはありますか。」と問いかけた。教材と日常生活の自分をつなげる工夫をすることで，本時の道徳的価値の理解について，自分自身との関わりの中で深めることができた。

【その他】

- 教師による読み聞かせの前に，場面設定を確認したことで，児童が教材の内容を理解することに役立った。
- 場面絵を提示しながらどんぐりを隠した場面について児童に心情を問いかけたことで，きつねの心情を想像して，共感している児童の姿が見られた。

実際の指導案はこちらへ

第3学年 道徳

道徳的価値である「節度・節制」をもとにスマホ使用に関わる自分の生活を見つめ、多面的・多角的に考える学習を通して、進んでよりよい生活を送ろうとする態度を育む授業

二本松三中 大沼 仁

1 本教材における夢中になって学ぶ姿

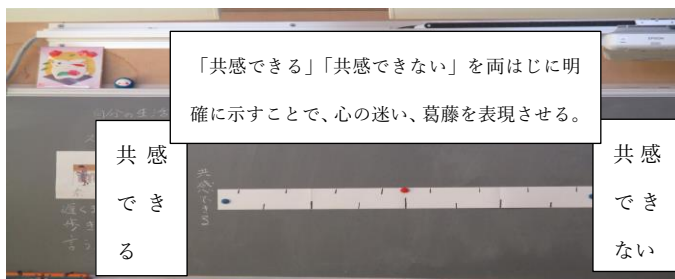
時間	場面	学習活動（夢中になって学んでいる姿）	資質・能力等
1	対話する 習得する	学級活動「SNSの使い方について考えよう」 ・SNSにはどのようなものがあるのか確認し、生活の中で気を付けなければいけないことを考え、積極的に意見交換をしている。	・SNSの便利な点とともに、注意しなければならないことを自分事として考え、意見交換している。
2 本時	考える 自己を見つめる	道徳「スマホに夢中！」 ・SNSの使い方について考え、危険とわかっていても使用の仕方を変えなかった（変えられなかった）のはなぜか考え、積極的に意見交換をしようとしている。 ・主人公の生活が変わらないままだったらどうなるのか考えるとともに、他の生徒の意見を聞こうとしている。	・主人公の気持ちに共感できるかどうか自分事として考えている。 ・事故を起こした主人公の行動や心情について考え、安全で調和のある生活を送ろうとしている。

2 本時における研究の視点

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

- ① 主人公の行動と自分の経験を重ね合わせて考え、主人公と自分の共通する点や相違点を見出す発問をする。

- 主人公の行動に共感できるかどうか考える。自分の気持ちや考えを「心のものさし」で考え、級友の考えに触れながら意見交換する。



- ② 「節度・節制」についての理解をもとに、級友と意見を共有し、自身の考えを広げられるようにする。

- 「節度・節制」についての具体的なイメージを広げ、広がったイメージをもとに自分の生活を振り返り、「できていること」「できていないこと」「気を付けていること」などについて意見交換しながら表現する。

<生徒の話し合いから>

- 時々夜遅くまでスマホを使ってしまう。
- 歩きスマホは危険なのでしないようにしている。
- 学習中、スマホは気になるが、気にしないように注意している。でも、やっぱり気になる。

視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

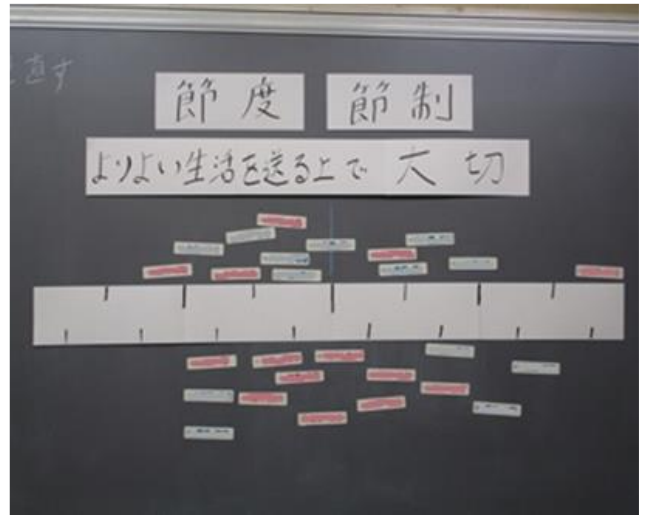
- 「ながらスマホ」や「夜ふかしスマホ」など教材を活用して話し合ったことを生かして、自分の内面や生活をもう一度見つめ直させる。

<生徒の振り返りから>

- 主人公のように、「ながらスマホ」はよほど注意しなければならない。油断すると危ない。
- 学習する時、スマホがやはり気になる。スマホを近くに置かないなど工夫していきたい。

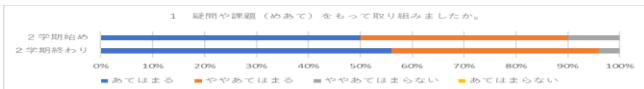


★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

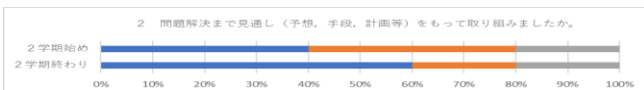


3 アンケートの結果から

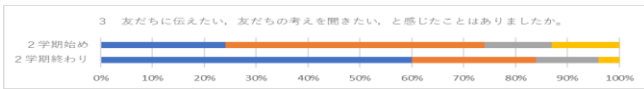
① 関心・意欲、課題意識



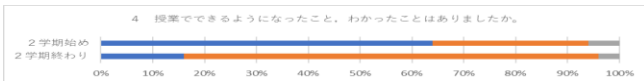
② 見通し



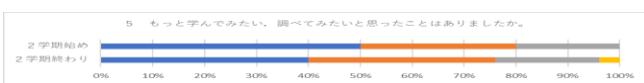
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 自分の気持ちを「心のものさし」で表し、自分の行動を客観的に見つめ振り返ることができた。また、教材中の主人公に共感できるかどうかについて、級友と理由、根拠を交えて話し合うことで多面的・多角的に考えることができた。
- 授業後に課題として、本日の家庭学習を行う際、主人公の名前をとり「奈美恵度チェック」を実施した。すると生徒の半数以上が自分の不十分さを振り返っていた。授業の中でこそ主人公と自分を重ね合わせるこのような時間を確保すべきだった。

- 「節度・節制」の意味が難しく、生徒からの外れな意見が出るがあった。「度を超えて生活すること」「ながら〇〇する」「〇〇のしすぎ・・・」などの分かりやすいイメージを生徒から引き出し、共有すべきであった。教材に描かれている「ながらスマホ」以外の例を考えさせて、意見交換できればさらに自分の経験に即した意見を出すことができたと考えられる。

【視点Ⅱ】

- 主人公と自分の経験を重ね、自分事として考える中で、自分の今までの経験や生活を見つめ直すことができた。
- 振り返りについて、級友と意見交換する時間を十分に確保できなかった。もっと自分のことを顧みる時間を大切にすべきだった。
- 特に話し合いの場面ではスマホの使い方等の「方法論」に話がいきがちであった。「なぜそう考えるのか」「自分の生活でしっかりできているか」等問い返しをして考えを深めさせたい。

【その他】

「心のものさし」について、黒板で名札を用いて活動したが、タブレットを使って活動することもできた。ワークシートについても、タブレットを使って生徒同士の意見の共有もできたと感じた。これから有効に活用していきたい。

実際の指導案はこちらへ

第3学年 学級活動(2)

【生活上の課題を自分のものとして真剣に考え、具体的なめあてや解決方法を意思決定して、主体的に実行しようとする姿】をイメージした授業

東和小 大和田 樹

1 年間指導計画における夢中になって学ぶ姿

時間	題材名	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等
1	気持ちのよいあいさつ(ア)	・気持ちよく学校生活を送るためには、どのようなあいさつをすればよいかについて考え、話し合っている。	・気持ちのよいあいさつをするために、自分に合っためあてを意思決定することができる。(思・判・表)
2	災害から身を守るためには(ウ)	・地震や水害などの災害から自分の命を守るためには、どのような心がけと行動が必要かを考え、話し合っている。	・自分の命を守るための正しい知識を身につけることができる。(知・技)
3	よい歯にかわれ(ウ)	・健康な歯や歯茎を維持するためには、どのような生活習慣を身につければよいかについて考え、話し合っている。	・むし歯や歯周病にならないために、自分に合った生活上のめあてを意思決定することができる。(思・判・表)
4	なかよしになるまほうの言葉(イ)	・友だちと仲よく学校生活を送るためには、どのような言葉づかいや話し方をすればよいかを考え、話し合っている。	・友だちと仲よく過ごすための話し方を考え、自分に合っためあてを意思決定することができる。(思・判・表)
5 本時	わすれ物ゼロ作戦(ア)	・忘れ物をしてしまう原因や忘れ物をしないための生活習慣について考え、話し合っている。	・忘れ物をしないようにする方法を考え、自分に合っためあてを意思決定することができる。(思・判・表)
6	放射線教育(ウ)	・身の回りに存在し、利用されている放射線についての正しい知識を学ぶとともに、放射線関係の偏見や差別等について考え、話し合っている。	・放射線の性質や放射線が及ぼす健康への影響について、正しい知識を身につけることができる。(知・技)
7	協力するってどういうこと(イ)	・学校生活を送る上で、他の人と協力することの価値や大切さについて考え、今後どのように生活していくかを話し合っている。	・友だちと協力するために、自分にできることを意思決定することができる。(思・判・表)
8	早ね早起き朝ごはん(エ)	・早寝や早起きができなかったり、朝ご飯を食べられなかったりする原因について振り返り、どのような生活習慣を身につけるべきか、話し合っている。	・「早寝早起き朝ご飯」を実践するために、自分に合った生活上のめあてを意思決定することができる。(思・判・表)

2 本時における研究の視点

視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

① アンケート結果をグラフ等に表し、画像に映し出すことで、自分たちの実態や現状を把握させ、課題をつかませる。

○ 事前に実施したアンケートの結果をグラフ等に表し、その画像を拡大して映したり、掲示したりすることで、自分たちの実態や現状を把握させ、課題をつかませる。

グラフ化

<グラフを見た児童の反応>

T:「あなたは、忘れ物をしますか?」というアンケートへの回答結果がこれです。

C: えー! 赤とかピンクばかりじゃん!

(赤・・・よく忘れる, ピンク・・・ときどき忘れる。)

T: 他に気づいたことはあるかな?

C: あっ! 忘れ物をしたことがないって人が0人だ!

C: みんな、忘れ物しているってこと?

C: まずい・・・。もう3年生なのに・・・。



② 学級全体の問題であることを共有するとともに、教師との話し合いを通して自分事としてとらえさせる。

このアンケートを見て気づいたことは?

3年生になっても、こんなに忘れ物をしてしまっているのは、まずいと思う。



視点II【学びの連続性につながる振り返り】

○ 実践意欲の継続化を図るために、具体的なめあてを決めて、実践カードに記入させる。

<児童の振り返りから>

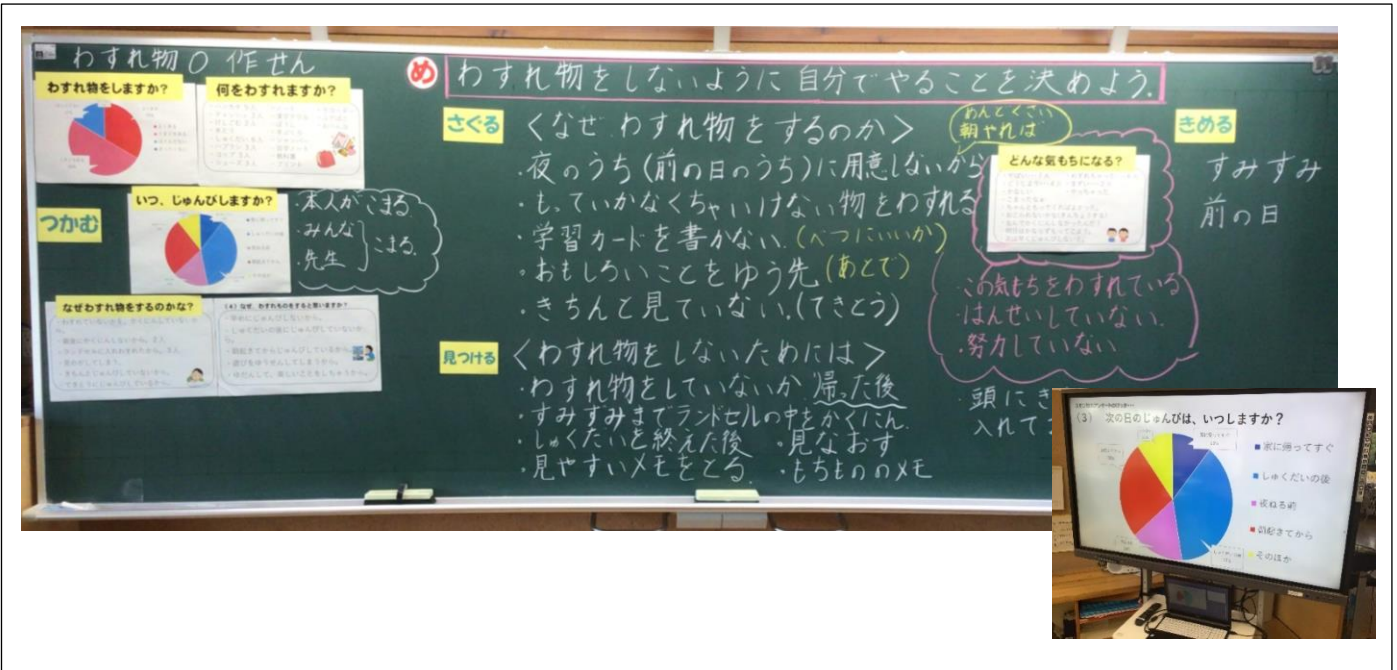
★ ぼく・わたしがきめた「めあて」
わすれものをゼロにするために、気をつけて生活してみようと思うことを書きましょう。
「〇〇に〇〇してしゅんびしたい。」「△△という気持ちで生活したい。」など。
※「いつ」「どのように」など、**くわしく**。
「**いつも忘れ物をした時、家に帰っていないから、これからは、家族や友達と一緒に、忘れ物を起こすこと、忘れ物を減らすようにがんばる。**」

★ 月ごとに自分の生活を振り返りましょう。(◎・○・△)

10月18日	10月19日	10月20日	10月21日	10月24日
◎	◎	◎	◎	◎

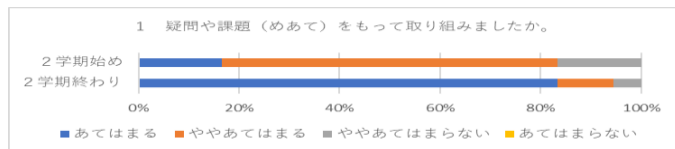
★ 自分の生活を振り返って(10月29日)
前の日にしゃべっていて、夜もかくにんして、朝の時間もかくにんしたら、おれもめあては、これで、これからは、忘れ物を減らすようにがんばる。

★板書を創る【本時のねらいに基づいた板書案の作成】

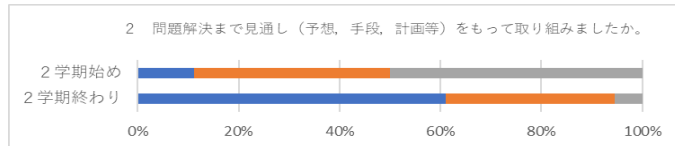


3 アンケートの結果から

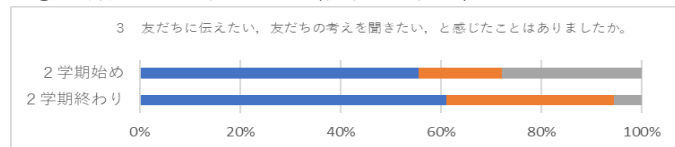
① 関心・意欲，課題意識



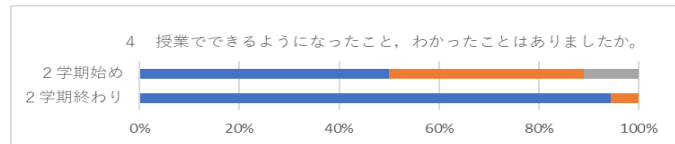
② 見通し



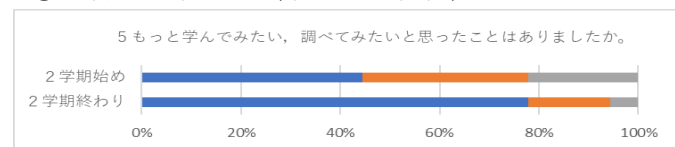
③ 話し合い・学び合い(協働の学び)



④ 振り返り



⑤ 新たな学びへ（学びの連続性）



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- アンケート結果の画像を大きく映したことで、「忘れ物をしたことがない人がいないよ」という発言があり，問題意識を高めることができた。

- 自分の生活をふり返りながら，話し合うことで，「忘れ物をしている」という自分の課題に気づかせることができた。

- 学級の課題を自分事としてとらえさせようと，アンケートの結果を把握させることに時間をかけすぎてしまった。アンケートの結果の提示の仕方を工夫し，課題を焦点化するための話し合いの時間を確保すべきだった。

【視点Ⅱ】

- 実践カードに具体的なめあてや実践のふり返りを記入させたことにより，授業後の実践時だけでなく，その後の生活の実践意欲も高めることができた。

（アンケート結果④⑤）

- 終末の「決める」の段階でめあてを記入させた後に，他の児童のめあて（考え）にふれさせる時間が少なかった。導入の「つかむ」の時間を短くし，互いの意見を発表したり，話し合ったりする時間を十分に設け，自分以外の意見のよさにも気づかせたい。

【その他】

- 板書構成の中に「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」という項目を掲示することで，学びのプロセスを把握しやすくなることのできた。

実際の指導案はこちらへ

特別支援学級知的 自立活動

【具体的な生活場面で、児童自身が課題を受け止め、各自が改善策を考える活動を通して、意欲的に改善を図る姿】をイメージした授業

二本松南小 野村 一弘

1 本題材における夢中になって学ぶ姿

時数	場面	目標	資質・能力等
1	発表	自分の得意なことをみんなの前で発表し、自信をもつ。	自分の得意なことを発表し自己肯定感を高めことができる。3-(4)
2	発言・話し合い	自分の良いところを見つけ出し、友だちから見つけてもらう。	長所に目を向けることで、自己理解を高めることができる。3-(3)
3	発言・話し合い	長所と選択しない項目から自分の課題に気付く。	長所として選択しないことが、自己課題と気付く事ができる3-(3)
4	ロールプレイ・発言・話し合い	あいさつする判断や具体的な動作を考えることができる。	あいさつのやり方や判断の仕方を知り、生活で使おうとする3-(4)
5	ロールプレイ・発言・話し合い	ルールを守る理由を考え、常に意識する大切さに気付く。	ルールを守ることが、結局自分のためであることに気付く3-(4)
6	ロールプレイ・発言・話し合い	話を聞く大切さに気付き、よく聞くための方法を考え、日頃から実行しようとする事ができる。	話を正しく聞いて、日常生活を安心安全に送ることができる6-(5)
7	ロールプレイ・発言・話し合い	整理のタイミングと具体的な方法を考えることができる。	整理整頓して、日常生活を安心安全に送ることができる6-(6)
8	ロールプレイ・発言・話し合い	自分の思いばかりを優先せず、仲よくする方法を考える。	友達と仲良くして、日常生活を安心安全に送ることができる6-(7)

2 本時における研究の視点

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

○ これまでの学習を振り返り、考え方の参考にできるようにする。

○ 20枚の「よいところカード」からこれまで自分のよいところとして選ばなかったカードは何かを考えさせ、それらが自分の課題であることに気付かせる。



○ これまでに学習してきた内容を確認し、まだうまくできていないのでどうすればよいかを動作化したり、話し合ったりした。

◎ これまでに学習したこと

- 相手に顔とへそを向ける
- 足べったん
- おなかと机にグーっ



○ これまでに学習した内容だけでは、まだ改善できていないので、どのような改善策があるかを見童になげかけた。見童は、教師が提示した例などを参考にして

- ・てわすら（物いじり）しない。
- ・集中する。

などを挙げることができた。ただ、本時で一番大事な「相手に心を向ける」ことに気付いていないので、教師から提示することにした。

視点Ⅱ【ロールプレイにより実感し、考え、自分なりの表現方法で示すことのできる工夫】

○ ロールプレイ、キーワード「心をむける」、キーワードをイメージする「ハートのイラスト」等を使って、実感できるようにする。

○ 「相手を意識する」ことを「心をむける」と表現した。ハートのイラストと動きで、「心をむけて聞く」ことが大切だということに気付くことができた。

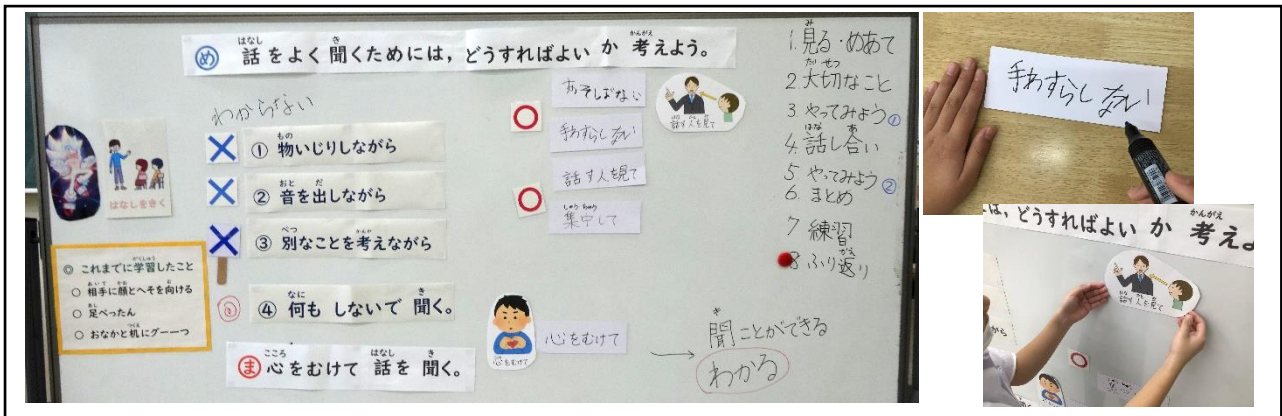
話をする
人に心をむける

話をよく聞くためには、どうすればよいか考えることができたか

話をよく聞くための練習をがんばったか？

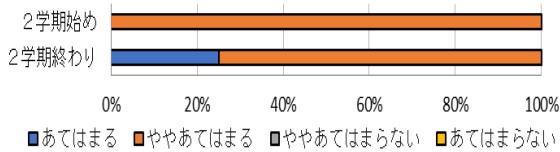
文で書く
こころをきく

★板書を作る【本時のねらいに基づいた板書等の作成】

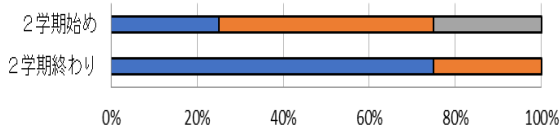


3 アンケートの結果から

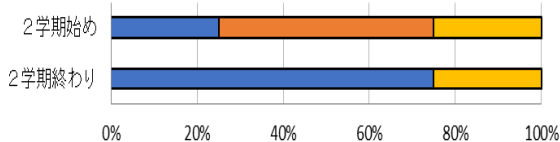
1 自分の目的をもってとりくみましたか。



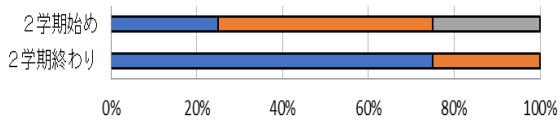
2 「こうやるといけな？」と思ってできましたか。



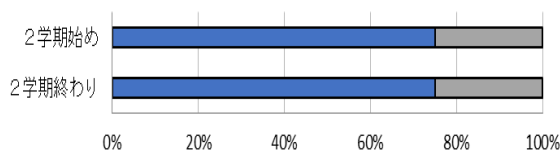
3 友だちに伝えたい、友だちの考えを聞きたい、と感じましたか。



4 授業でできるようになったこと、わかったことはありましたか。



5 もっと学んでみたい、調べてみたいと思いましたか。



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- 自分の生活を振り返っての課題だったので、自分事として意欲的に考えることができた。
- 既習学習内容なので、ロールプレイを取り入れることで学習が成立したが、目新しさがなく6年生は退屈そうだった。もう少し思考を必要とする内容にすればよかった。また、より自分事として考え取り組むようにするために、このカードを選んだ本人に質問する方法も考えられた。

【視点Ⅱ】

- 例示やロールプレイを活用することで、課題を理解し、状況を実感して考えることができた。
- 自分の考えの表現方法を子どもに選択させることで、無理なく表現することができた。
- 「心をむける」というキーワードをハートマークのイラストと動きを同時に提示する（視覚的提示の工夫）ことで、児童は具体的に正しく聞く姿勢を理解することができた。
- できないことを取り上げるより、「こうするとできた」というプラス面に気付かせたい。

【その他】

- 「よいとこカード」を活用して、無理自己課題を見つけ出すことができたのは、よかった。

実際の指導案はこちらへ

鬼遊び

【役の変化を楽しみながら友達と体を動かして遊ぶ楽しさを感じる姿・ルールを一つ加えることで意欲的に体を動かす姿】をイメージした保育

とうわこども園 安齋 紀子

1 本單元における夢中になって遊ぶ姿

時間	場面	学習活動(夢中になって学んでいる姿)	資質・能力等 ①～⑩幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿
1～2	わかる	<ul style="list-style-type: none"> お面を使い、鬼遊びの簡単なルールのイメージをもち、友達や保育教諭とのやり取りを楽しんでいる。 鬼遊びの簡単な歌を歌ったり、合図を聞いて友達と一緒に逃げたりして楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで一緒に活動することを楽しむ。 体を動かして遊ぶ楽しさを感じる。 ①健康な心と体 ⑩豊かな感性と表現
3～7	わかる 楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ルールがわかり追いかけて逃げることを繰り返して楽しんでいる。 保育教諭や友達の動きや言葉を聞いて自分なりに体を動かす楽しさや快さを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びのルールが分かりおもしろさを感じる。 体を十分に動かして遊ぶ。 ①健康な心と体 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑨言葉による伝え合い 保育教諭や友達の動きに関わって自分なりに体を動かす楽しさを感じる。 ①健康な心と体 ②自立心
本時 4 / 5	表現する	<ul style="list-style-type: none"> 友達の動きや言葉を聞いて自分なりに体を動かす楽しさや快さを感じている。 保育教諭の動きを真似てみたいと思い、一緒に鬼役になり友達と追いかけることを楽しんでいる。 鬼役、逃げる役のイメージを自分なりの動きで表現して遊んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ物(お面)を身につけ、保育教諭の真似をして動いてみながら体を動かして遊ぶ。 ①健康な心と体 ⑩豊かな感性と表現 自分なりにこんなふうにしてみたいと思ったことを保育教諭の援助を受けながらやってみようとする。また、自分でやってみようとする楽しさを感じる。 ①健康な心と体 ②自立心 ⑩豊かな感性と表現
8～10	発揮する	<ul style="list-style-type: none"> みんなと同じ場所で鬼遊びをすることに楽しさを感じたり自分なりに動いたりして、満足感をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育教諭や友達に関わって動いたり自分なりに体を動かしたりする。 ①健康な心と体 ②自立心

2 本時における研究の視点

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

① 最小限のルールにポイントをしばりルールを理解しやすくし共有できるようにしていく。

○保育教諭は鬼役が分かりやすいようにお面を付ける。合図を聞いて逃げるところはドキドキやワクワク感が味わえるようにゆっくり歌うなど曲調を変えながら遊ぶようにする。



ク感が味わえるようにゆっくり歌うなど曲調を変えながら遊ぶようにする。

○ 保育教諭の動きを真似て見たくなるように動きを大きく演じ、楽しめるようにする。



② ルールを一つだけ加えることで遊びの変化を楽しみ意欲的に体を動かす楽しさにつなげていく。

○ 繰り返し遊ぶ中で同じ動きだけでは単調になってくるので、1つ新しい動き「追いかける」を加えることを提案する。



視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

<振り返りの視点>

- ①良かったところ
- ②頑張っていた姿
- ③次にどんなことをしたいのか

<振り返りから>

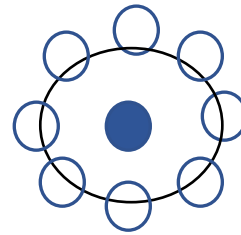
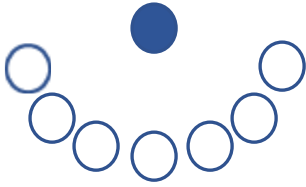
・せんせい、わたし、どうだった？
 ・にげるのじょうずだったでしょ！
 ・おにをよくみてて、にげたんだよ。
 ・つかまらないように、かくれたんだよ。
 ・にげるとき、くるっとしたんだよ。 など
 捕まらないで逃げられた子、鬼になって捕まえた子など、どのような気持ちだったのか、子どもたちから言葉を引き出した。言葉にならないところは、保育教諭が思いを押し測りながら丁寧に言葉をつなぐとともに、よかったところなどを具体的な言葉で伝えた。

★【本時のねらいに基づいた活動の場づくりの工夫】

<始め ・ 終わり> ● 保育者 ○ 幼児

<活動時>

場所 遊戯室



4 考察【○成果 ●課題と改善策】

【視点Ⅰ】

- ルールが視覚的にもわかるように保育教諭がお面をつけたことで鬼役であるとすぐにわかり、3歳児なりのルール理解につながった。
- 保育教諭も遊びに加わり、良かった動きなどを認めてあげることで鬼に捕まらないように逃げようとする意欲につながった。
- ルールを1つ加えたことで、「逃げる」動きだけでなく「追いかける」動きの楽しさや刺激を感じ、意欲的に体を動かすことへつながっていった。
- 最小限のルールにポイントをしばらく伝えたものの捕まるのが嫌だなどの理由で遊びだせない子どもみられた。逃げる範囲が限られるよう活動場所を遊戯室にした。視野が限られることで鬼役の動きや友達の多様な動きが目に入り、遊び方の理解につながっていった。捕まるのが嫌で混ざれなかった子ども、友達が鬼に捕まった後もまた遊び始めている様子や楽しそうに逃げて遊んでいる様子が目に入り、遊びに入ることができたと思われる。環境構成の工夫や一人一人にあった援助の大切さを感じた。

【視点Ⅱ】

- 新たに、捕まらないように逃げている子の良かった動き、追いかけている子の良かった動きを言葉で伝えることで鬼遊びのいろいろな役をやってみようという姿につながっていった。
- 捕まらないように鬼をよける動きや、捕まらないように隠れている子、捕まるのが怖い子など幼児の動きを目的を持って丁寧に見取り一人一人のしぐさや、表情、つぶやき、発した言葉や動きなどを見逃さず、保育教諭が共感し、言葉にして園児に伝え

ていくことが大切である。今後も子どものしぐさやつぶやきなど言葉にならない思いをくみ取り、援助やねらいにあった環境構成をしていきたい。

【その他】

- 年間を通して意図的に鬼遊びを取り入れたことで、3歳児なりにみんなで思いきり体を動かして遊ぶ楽しさにつながった。
- 幼児の発達段階や個人差に目を向け、年間の遊びの連続性を見直すなど、年齢ごとに育みたい資質・能力を育てるために、ねらいを明確にし、短期的、長期的な計画を立て、実践し、改善を繰り返して、PDCAサイクルをまわしていくことが大切であると感じた。



実際の指導案はこちらへ

IV 研究のまとめ

(1) 成果と課題

視点Ⅰ【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

- 児童生徒の日常生活とつながる学習課題を設定したことで、自分自身との関わりを踏まえながら考えを深めることができた。また、他教科の学習との関連性や単元を通しての学びに連続性をもたせることができた。
- 子どもたちの意欲を高めたり、多様な考えを引き出したりするための教師の関わりとして、子ども達のよかった動き・考え等をその場で認めたり、子ども達へ問い返しをしたりすることが効果的だった。
- 目に見えないものの可視化を意識した教材の提示・ワークシート等の工夫により、普段見逃していた事物・事象を意識し、自分事として捉えることができた。
- 児童生徒の考えが記入してある図、学習内容や様子が分かる写真、表等を用いた構造的板書を作成することで、児童生徒は自分と相手の考え方を比較検討しやすくなり、新たな考えに気付くなど課題に対して考えを深めることができた。
- 教師がねらいとした活動を展開していくためには、育成すべき力を明確にした単元構想、環境整備の工夫、一人一人に合った援助が必要となってくる。
- 調べる活動を十分に確保することにより、根拠となることを見つけ、根拠をもとに考えを深める学習につなげることができると考える。
- 課題を自分事としてとらえさせるために、単に学習課題の難易度を下げるのではなく、より実生活に密着した課題や思考を深めることができる課題にしたり、提示の仕方を工夫したりすることが必要である。

視点Ⅱ【学びの連続性につながる振り返り】

- 振り返りを今年度継続して取り組んだため、複数の視点がある場合には自ら選択し、視点に沿って振り返る姿が見られるようになった。また、「楽しかった」「うれしかった」等の感情的な振り返りから、「□□ができるようになったのは△△のため」等の自己の学び方を見つめる振り返りが増えていった。
- 振り返りによって自分やグループの取組に対しての課題を明確にすることができた。教師も児童生徒の振り返りから次時の学習内容に関わる内容を取り上げ、学習課題を設定することができた。
- 子ども達は、どうしてもできなかったことを取り上げがちであるが、その原因や解決策に気付くことができるような言葉かけをしたり、参考になる内容を書いている児童生徒の振り返りを紹介したりして、次の学習につなげていく工夫が必要である。
- 自己の振り返りを行わせた後に互いの意見を発表し合ったり、話し合ったりさせたい。これにより気付いたことや疑問等、様々な考えに触れることができ教師のコーディネートにより次時への意欲や課題設定にもつながっていくと考える。



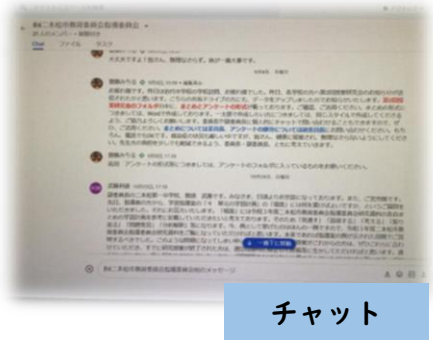
(2) おわりに

コロナ禍をきっかけに一人一台タブレット端末が配備され2年が経過しました。どんな状況においても夢中になって学ぶ子どもの姿をイメージした授業、そしてタブレットの有効活用とは・・・等、模索の日々ではなかったでしょうか。その一助になればと思います、二本松市教育委員会指導委員会として研究を進め、その成果を冊子にまとめました。この冊子が先生方の授業改善に少しでも役立ち、二本松市の子ども達の学力向上につながれば幸いです。

また、今年度、指導委員会の運営にICTが有効に働きました。感染拡大防止のため参集できない中でも研修が進むよう、**グーグルワークスペース**を用いたのです。ここでその例を3つ紹介します。

まず、**共有ドライブ**です。各種様式や資料及び指導案の交換が行いやすくなりました。発出する側は即座に提供することができ、受け取る側は自分のタイミングに合わせて受け取ることができました。次に**チャット**です。リアルタイムで情報をやりとりすることができました。それは記録として残るのでメンバー内の情報共有にも役立ちました。最後に**グーグルフォーム**です。アンケート集計が瞬時に行われ大幅な時間短縮につながりました。授業の中でも活用できるものです。

これらの活用は、今後の業務の在り方に大きく影響すると実感しました。ご自身のICT活用力向上のためにも、チャレンジし、業務や授業で活用していただきたいと考えています。



令和4年度二本松市教育委員会指導委員会作成委員

- | | | |
|--------------------|-----------------|---------------|
| ◎委員長 齋藤みちる (油井小教頭) | ○武藤利徳 (二本松一中教頭) | |
| 西屋 純 (油井小) | 齋藤真由美 (二本松一中) | 小野真樹 (油井小) |
| 先崎貴徳 (東和中) | 佐藤裕美 (小浜小) | 菅野耕司 (安達中) |
| 山口美由紀 (渋川小) | 本多一雅 (岩代中) | 野地由美子 (二本松北小) |
| 大沼 仁 (二本松三中) | 遊佐久美子 (二本松二中) | 渡邊康貴 (東和小) |
| 草野洋一 (二本松一中) | 阿部理佳 (石井小) | 菅野香代子 (二本松南小) |
| 武田由香理 (二本松二中) | 大和田樹 (東和小) | 野村一弘 (二本松南小) |
| 安齋紀子 (とうわこども園) | | |

令和4年度二本松市教育委員会作成委員

- | | | |
|-------------|---------------|-------------|
| 丹野 学 (教育長) | 太田孝志 (学校教育課長) | 長澤 潤 (管理係長) |
| 藤原 謙 (指導係長) | 大関智幸 (指導主事) | 鹿目敦子 (指導主事) |
| 奥山 満 (指導主事) | 糞田祐子 (指導主事) | 佐藤和彦 (指導主事) |